

令和5年度日本宇宙少年団分団長会議議事次第

1. 日程: 令和5年11月25日(土)13時～17時50分、
11月26日(日)9時～11時40分

2. 会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター 及び オンライン会議システム Zoom
(151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1)

3. 内容

11月25日(土)13:00～17:50 全体会議 センター棟402室

- | | |
|-------------|---|
| 13:00～13:10 | 1. 開会／議長挨拶 資料等確認
議長 近畿地区 大阪分団 中川 二郎 分団長 |
| 13:10～13:30 | 2. 財団からの報告
公益財団法人の令和4年度事業報告及び運営状況について |
| 13:30～14:30 | 3. 【報告】活動委員会報告・情報提供及び今後の予定
(1)活動委員会概要
(2)分団活動推進委部会
・YAC 分団の活動調査結果について
・web サイト報告活性化
・表彰
(3)支援活動推進部会
・宇宙教育指導者セミナー
・衛星データ活用
・活動教材の充実
・新たな挑戦地球型惑星を目指して
(4)SKiP 推進部会
・YAC かわら版 /宇宙教育誌の発刊
・全国水ロケット大会の実施
(5)情報提供(宇宙教育に関係する箇所を中心に)
・就学前教育・保育の動向
・義務教育の動向(GIGA スクール、ESD・SDGs 中心に)
・分団活動報告の活用について |
| 14:30～14:40 | 休憩 |
| 14:40～15:20 | 4. 新たな挑戦地球型惑星を目指して
オンデマンドビデオレクチャーの紹介
「大きな望遠鏡で惑星が生まれる現場を見る」
次年度のビデオ教材の講師の推薦依頼について |
| 15:20～15:50 | 5. 活動発表
水沢 Z 分団、こおりやま分団、相模原分団、焼津分団 |
| 15:50～16:00 | 休憩 |
| 16:00～17:00 | 6. 「宇宙を通して」学び続ける、育み続ける仕組みづくりについて
・議論の背景を提案(YAC チャレンジについて)
・出席の各分団からのご意見
・まとめ |
| 17:00～17:45 | 7. 今後の活動について 情報交換
出席の各分団から活動発表などを聞いての発言 |
| 17:45～17:50 | 1日目終了・宿泊等の事務連絡 |
| 18:00～20:00 | 懇親会 |

11 月 26 日(日) 「新たなる挑戦 全国ワークショップ」

9:00～9:10 挨拶、趣旨・段取りの説明 センター棟402室

9:10～10:10 参加分団の活動発表(発表をお申込みいただいた分団)
ノシロ分団、水沢 Z 分団、館林分団、厚木分団、女性分団長(座談会)、
呉やまと分団、北九州市分団

10:10～10:40 地域ブロック毎に質疑 402 室、408 室、410 室
モデレーター:ブロック長等

10:40～11:00 全体討議
・モデレーター、参加者からの感想、提案
総括、締めの挨拶

11:10～11:40 山崎理事長講演

公益財団法人の令和4年度事業 報告及び運営状況について

令和5年11月25日

令和5年度日本宇宙少年団分団長会議

公益財団法人日本宇宙少年団
専務理事 遠藤 守

(公財)日本宇宙少年団の活動は、団員と賛助団員から頂いた会費、賛助会社及び寄付金で支えられています。

2. 令和4年度事業報告について

事業計画に基づき、以下の事業を実施しました。※主な事業についてご報告します。

➤ 人材育成事業

種子島スペースキャンプ、筑波スペースキャンプ を実施

H3ロケット打上げ応援ツアーを実施したが、延期により打上げは見れなかったが、岡田プロジェクトマネージャとお会いすることができ、子ども達と質疑応答の交流を行った。

➤ 情報発信事業

宇宙のとびら発送、YAC通信の発行、付録(教材) など

➤ 普及啓発事業

①分団等との連携協力

②第12回衛星データ利用コンテスト

③だいち2号に写ろう！

④分団長会議 令和4年11月26日(土)、27日(日)2日間に亘り 会場とZoomのハイブリッドで実施

⑤活動委員会 (「第12回衛星データ利用コンテスト」「だいち2号に写ろう！」「分団長会議」

「宇宙教育指導者セミナーの開催」、「YAC分団の活動実態調査」「2020年宇宙の旅・YAC全国ワークショップ2020」「中高生向け宇宙基礎講座」「講座等のインターネット配信」「YACかわら版」「宇宙教育誌の発刊」「全国水ロケット大会」の企画・推進

⑥宇宙教育指導者セミナーの開催 10か所での開催

⑦講師派遣等

(主な実績) 和歌山県串本町宇宙ワークショップ、和歌山県串本町古座分庁舎リノベ展示内容の 監修

(株)KADOKAWA「宇宙なんちゃら こてつくん」 監修

➤ 「2020年宇宙の旅」事業(特定費用準備資金)

「2020年宇宙の旅」活動報告を分団長会議の場で行い、北九州市分団、佐野分団、前橋分団、分団サイエンスキッズみたかの4分団に発表いただき、今年度で終了しました。

財団の定款・役員名簿・事業計画書・収支予算書、事業報告書、決算報告書、議事録、内部規定など、詳しくは、公益財団法人日本宇宙少年団(財団のウェブページ)の情報公開に掲載していますのでご覧ください。

3. 令和4年度 事業実施状況について

- 昨年、全国分団からの講師派遣依頼が増えていることから、今年度より、役員(理事)でJAXA OBの専門家を分団へ派遣しました。 ※往復交通費は分団にご負担いただきます。
- Zoomで講演も受け付けています。

《YAC理事でJAXAOBの講師派遣実績》

- ① 未来MM分団 「宇宙飛行士になろう！」
- ② 手賀沼カッパ分団 「ロケットの話と傘袋ロケットの製作」
- ③ あいち・なごや分団 「講演会 & プラネタリウム見学」
- ④ 前橋分団 「エッ!!まだ、地球食？これからは宇宙食がトレンドでしょ！」
- ⑤ 分団サイエンスキッズみたか「君も宇宙飛行士の試験に挑戦してみよう!!」
- ⑥ 仙台たなばた分団 「宇宙飛行士についてのお話」
- ⑦ 東京日本橋分団 「YouTubeライブ「ゴー！5！若田さん！」
- ⑧ 逗子分団 「宇宙食体験！」

3. 令和4年度 決算と令和5年度予算について

収入	R4年度予算	R4年度決算	R5年度予算
受取入会金	800,000円	1,115,000円	1,000,000円
正団員会費	5,400,000円	5,957,000円	6,000,000円
賛助会会費	3,700,000円	3,620,000円	3,720,000円
寄付収入	3,300,000円	2,101,000円	2,100,000円
事業収入	2,600,000円	9,070,034円	6,500,000円
その他収入	5,000円	5,537,258円 (ゆめ基金教材開発助成) (経産省復活補助金)	31,000円
収入(計)	15,805,000円	27,400,292円	19,351,000円
支出			
事業費	13,253,000円	23,760,849円	16,654,800円
特定費用	(720,000円)	(720,000円)	0円
管理費	2,551,500円	2,879,568円	2,696,200円
支出(計)	16,525,000円	26,640,417円	19,351,000円
収支差額	▲720,000円	749,875円	0円
	赤字は特定費用分		

主な項目のみ記載しています。詳しくは公益財団法人日本宇宙少年団(財団のウェブページ)の情報公開に掲載しています。

4. 団員数

	2020/5/31	2021/5/31	2022/5/31	2023/5/31
団員数	2,109	1,896	1,919	1,931

	未就学	小1～3	小4～6	中学生	高校生	大学生以上
2020	1.3%	11.7%	37.6%	23.4%	12.5%	13.5%
2021	0.9%	11.4%	35.1%	22.7%	11.9%	15.5%
2022	1.4%	11.3%	35.8%	23.6%	10.0%	16.9%
2023	0.6%	12.0%	36.0%	22.7%	10.4%	18.3%

- ・ 団員数が徐々に増加傾向にある。
- ・ 日本宇宙少年団山崎直子理事長の知名度とYAC活動の向上をめざして入団案内のちらしを新規団員獲得にご活用いただきたい。
- ・ また、継続して「宇宙なんちゃら こてつくん」とのコラボレーションを行っているため、地域イベント等で着ぐるみ等ご活用いただきたい。

5. 分団数



142分団

6. (公財)日本宇宙少年団役員及び事務局体制

《理事・監事》

◆理事9名（非常勤）

任期：令和4（2022）年6月24日開催の定時評議員会承認日～

令和6（2024）年6月定時評議員会終結の時まで

区 分	氏 名	現 職 等
理事長	山崎 直子	宇宙飛行士
専務理事	遠藤 守	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 前副理事長
理 事	麻生 茂	日本宇宙少年団福岡分団 分団長（久留米工業大学 工学部 交通機械工学科 特別教授）
理 事	上垣内 茂樹	一般財団法人公正研究推進協会 事務局長
理 事	高田 正隆	(株)ASC 代表取締役
理 事	虎野 吉彦	(株)コスモテック 顧問
理 事	中澤 孝	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 前客員
理 事	藤島 豊久	日本宇宙少年団苫小牧分団 分団長（藤栄通信工業（株）代表取締役）
理 事	室山 哲也	日本科学技術ジャーナリスト会議(JASTJ)会長 元NHK解説主幹

◆監事2名（非常勤）

任期：令和2（2020）年6月22日評議員会閉会時～令和6（2024）年6月定時評議員会終結の時まで

区 分	氏 名	現 職 等
監 事	棚橋 秀行	棚橋電機(株) 代表取締役社長
監 事	富田 力夫	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 前招聘職員

《事務局》

役職	氏名	担当内容	常勤／非常勤
事務局長	稲田 伊彦	全体統括、財団旅行業務取扱管理者（総合）	非常勤
副事務局長	小定 弘和	分団・団員関係全般、宇宙教育指導者セミナー、宇宙のとびら、スペースキャンプなど	常勤
事業統括	安田 みお	事業企画・運営、総務業務、経理業務、スペースキャンプなど	常勤
YACコーディネーター	小島 俊介	宇宙のとびら、YAC通信、スペースキャンプなど	非常勤 （週1日）

公益財団法人日本宇宙少年団活動委員会概要（2023年度）

構成：委員長　　： 麻生　茂（YAC理事、福岡分団長）
副委員長： 臼井敏夫（呉やまと分団顧問）
委　　員： 石田拓郎（鹿児島地方本部）、
大木真人（本部リーダー）、
加藤隆弘（金沢支部副支部長）、
小紫公也（千葉スペースボーイジャー分団リーダー）、
高橋　徹（おおいた分団長）、
竹前俊昭（横浜分団長）、
藤島豊久（YAC理事、苫小牧分団長）、
増田隆志（館林分団長）

令和5年度の分団活動調査 概要

分団活動調査の本年度の特記項目

- (1) いわゆる開講式(スタート)について
- (2) 分団活動について
- (3) コロナ禍で得られた知見や発見等について、アフターコロナの活動にどのように活かしていくかを可能な範囲でご記入ください。
- (4) 分団長やリーダーの後継者や引継ぎ等について
- (5) ジェンダーやSDGs、ダイバーシティ(多様性)などを意識した活動について
- (6) 毎年実施している分団調査の内容について分団内のリーダー等で 共有確認して提出いただいていますか。
- (7) 毎年の分団調査の速報結果やYACホームページの他分団の活動報告について、リーダー等で共有確認していますか。

分団活動調査の実施方法

- ・日本宇宙少年団事務局より分団活動調査への回答のお願いを各分団にメールにて発信
- ・回答期間は、令和5年5月2日～令和5年5月30日の約1カ月間
- ・回答方法は、「電子メールへの添付」による提出でお願い

分団活動調査の回答状況

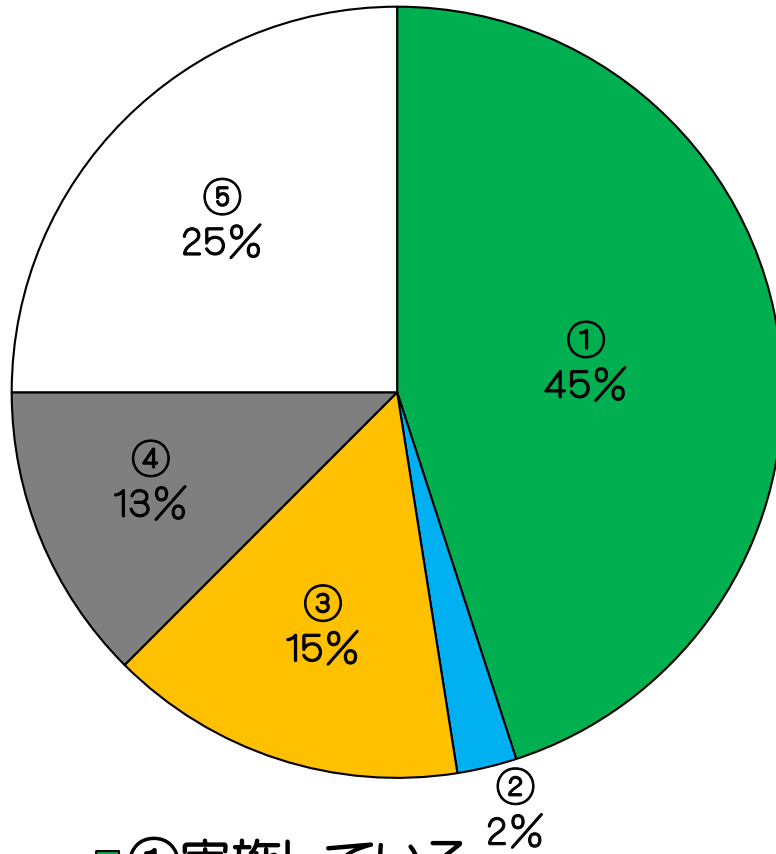
- ・全国の分団、支部、地方本部(休団中を含む)の内、**40**の回答

(参考：令和3年度→45 令和4年度→46)

※分団活動調査へのご回答にご協力をいただきました皆さま、ありがとうございました

分団活動調査の結果について(1)

(1)いわゆる開講式(スタート)について



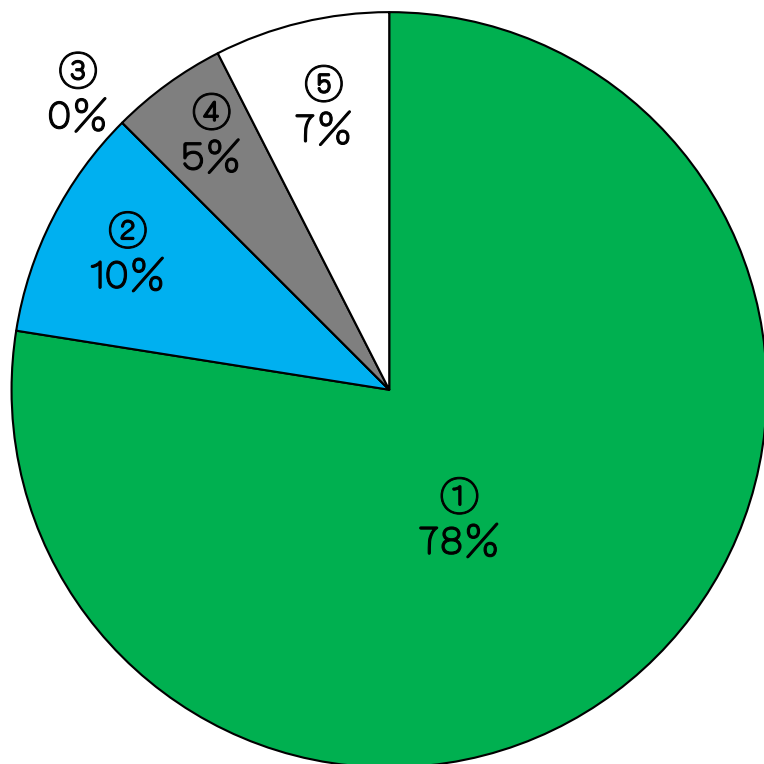
- ①実施している
- ②予定している
- ③実施しない
- ④実施したいが出来ない
- ⑤もともと実施していない

コメント概要

- ①
 - ・基本的な感染対策を実施した。
 - ・年度の活動計画の説明や新入団員説明会として実施した。
- ③
 - ・随時団員を募集しているので開講式は実施しない
 - ・4月～6月は学校行事も多く、子ども達が参加しづらいため
- ④
 - ・活動場所の制限により実施できない。
 - ・指導者の人材不足や休団中の理由による
- ⑤
 - ・カレンダーによる年度の区切りで活動を計画していないので
 - ・団員が年間を通して随時入団してくるので
 - ・開講式と特別に設定せず月例会の中や例会後に新入団員を紹介しているため

分団活動調査の結果について(2)

(2)分団活動について



- ①開始している
- ②予定している
- ③活動はしない
- ④活動したいが出来ない
- ⑤休団中

コメント概要

- ①
 - ・基本的な感染対策をお願いしながら実施している。
 - ・対面とオンラインを状況に応じて選択し、実施している。
 - ・使用場所のルールに従い実施を開始している。
 - ・体調管理に配慮しつつ、コロナ5類移行後に実施している。
- ②
 - ・再開のタイミングを慎重に見極めている。
 - ・会場施設の対応に準じて準備している。
- ④
 - ・指導者の人材不足や活動場所の制限による
- ⑤
 - ・年間を通した活動は出来てないが、水 Rocket コンテストへの参加の希望は団員に尋ねており、反応があればきっかけにして活動したい。
 - ・新型コロナの影響により休団中である。

分団活動調査の結果について(3)

(3) コロナ禍で得られた知見や発見等について、アフターコロナの活動にどのように活かしていくかを可能な範囲でご記入ください。

得られた知見等 概要

- オンライン活動の方法や便利さ
- オンライン活動と対面活動を適切に使い分けることの重要性
- 対面活動の良さを再認識した。
- 多くの制限を受けながらも、これまでの対面活動に様々な工夫と知恵を出すことが出来た。
- 清潔を保つことの重要性

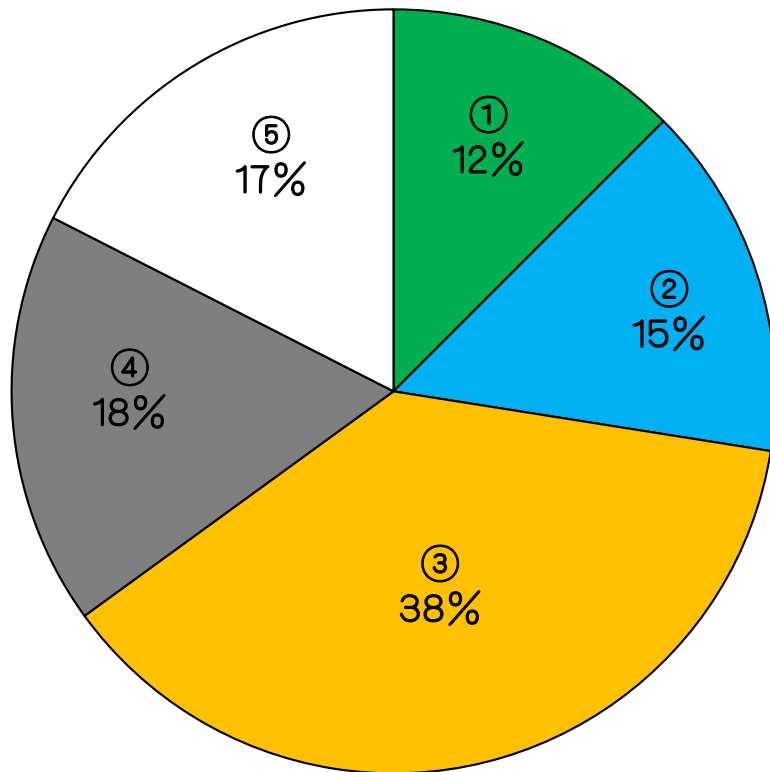
今後の活動に活かしていく方法等 概要

- 対面とオンライン、ハイブリット開催を視野に入れて活動に活かしていく。
- 感染対策に気を付けながら、対面での活動を行う。
- 感染対策の方法を今後の活動にも生かしていく。
- オンライン環境や機器に関しては団員でばらつきがあるので、気を付けながらオンライン活動も検討したい。
- 遠方からの協力を得る場合にはオンラインを選択肢としたい。

分団活動調査の結果について(4)

(4)分団長やリーダーの後継者や引継ぎ等について

コメント概要



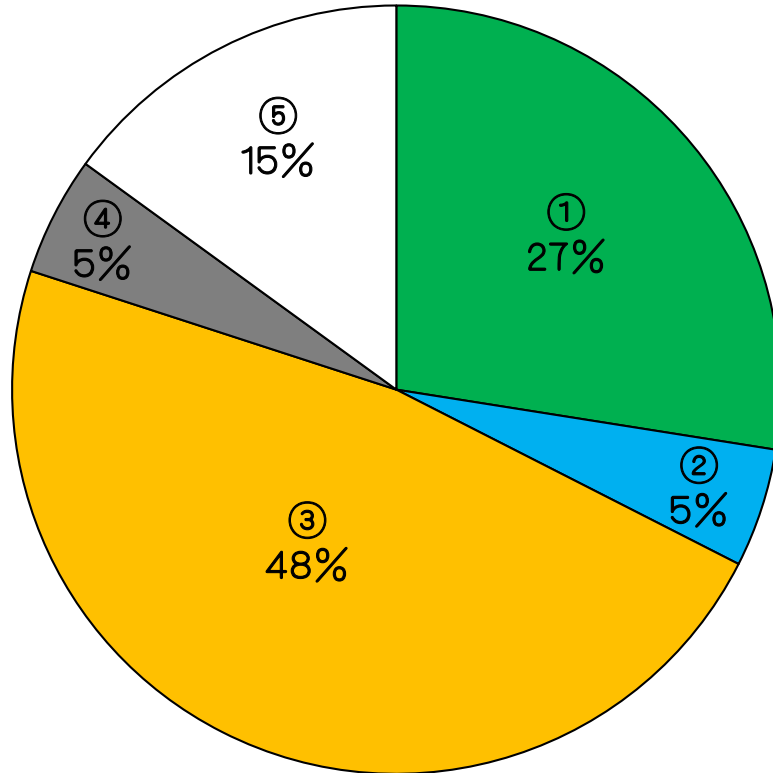
- ①引継ぎを既に実施している
- ②引継ぎの為の準備中
- ③現在、引継ぎの必要はない
- ④引継ぎしたいが出来ない
- ⑤その他

- ①
 - ・分団長の後継者については地域の有識者やリーダー相互の推薦により実施。リーダーの後継者は苦慮している。
 - ・分団長はリーダーから、リーダーは団員から選出した。若いリーダーがもっといてくれたら良い。
 - ・宇宙教育指導者セミナーを受講し、正式なリーダーとして登録する予定がある。
- ②
 - ・引継ぎについては、分団運営をしっかり把握している必要があるので慎重に考えている。
 - ・少しずつ事務作業や運営の取り回し業務を振って慣れてもらう
- ③
 - ・分団長の後継者は状況を見ながら意見交換を行っている。リーダーは団員の保護者に声を掛けている。
 - ・そろそろ考えていく時期になっていると思う。
 - ・発足したばかりであるので、必要はない。
- ④
 - ・リーダーの高齢化や新規リーダーの希望者が減っているため
- ⑤
 - ・活動停止中のため出来ない
 - ・科学館事業に組み込まれているので必ず担当者がいる。
 - ・市の広報誌等でリーダーを募集している。

分団活動調査の結果について(5)

(5) ジェンダーやSDGs、ダイバーシティ(多様性)などを意識した活動について

コメント概要



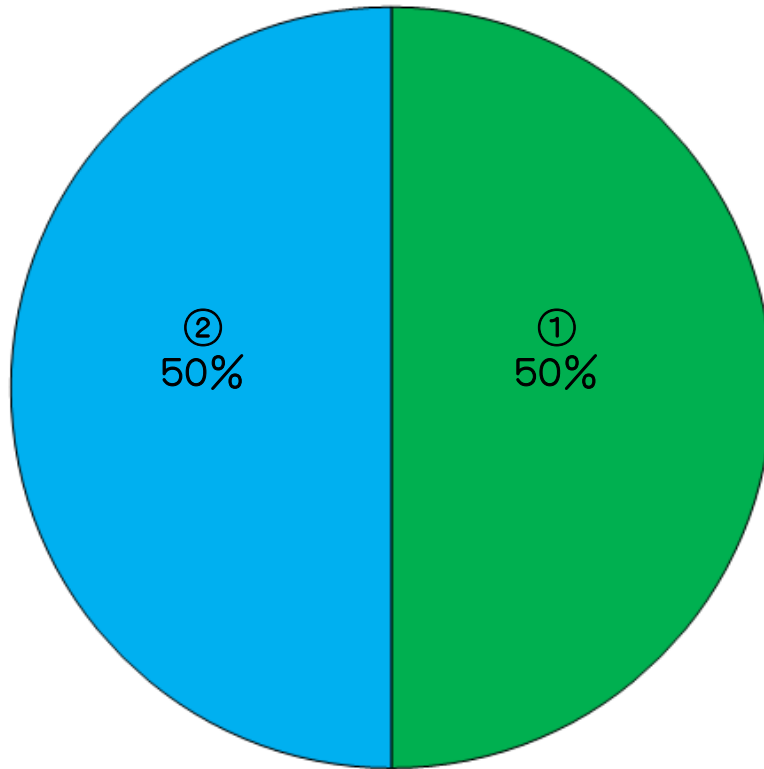
- ①意識した活動を行っている
- ②意識した活動を予定している
- ③意識した活動は行っていない
- ④意識した活動を行いたいが出来ない
- ⑤その分野には興味(意識)はない

- ①
・高校のサークルの協力や大学等と連携している。
・男女や国籍を平等に扱い、環境問題、地球温暖化などを取り入れたテーマで活動をしている。
・出来るだけ思ったことを自由に発言できる雰囲気を作る。
- ②
・下水処理場の見学を予定している。
・社会教育として何が良いか模索中
- ③
・特別な意識ではなく、配慮は常に行っている。
・今後、必要な視点等を検討し、取り入れることも考えたい。
- ④
・休団中や活動自体を再開できていないため
- ⑤
・ブーム施策であり、これらとこじつけた活動は必要と考える
・特段、今更意識することなく、これまで行ってきた活動そのものが全てを含んでいると考える。
敢えて言うなら、「質の高い教育」への貢献かと考える。

分団活動調査の結果について(6)

(6) 毎年実施している分団調査の内容について分団内のリーダー等で 共有確認して提出いただいていますか。

コメント概要



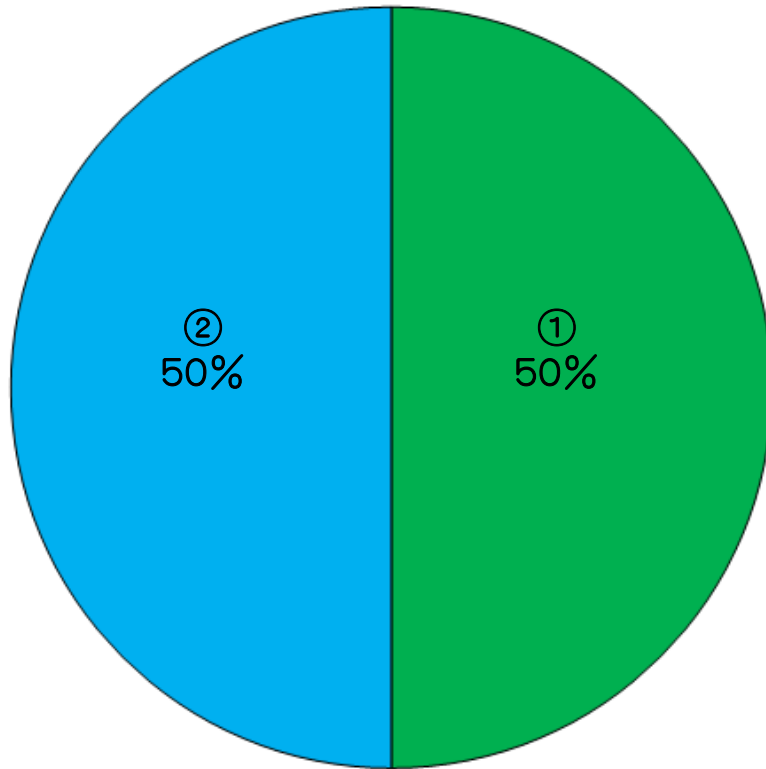
- ① 確認共有している
- ② 確認共有していない

- ①
 - ・例会後の打ち合わせや、供覧・相談などによって共有している。
 - ・メールやオンライン会議、Slack等を利用し、周知・共有している。
 - ・担当者間で回覧し、分団長の決裁を仰いでいる。
- ②
 - ・事務局や分団長が対応しており、他のリーダーには共有しておらず、また、手を煩わせたくない。
 - ・活動実態把握が目的であり、実態を把握している分団長等が回答すれば良いと理解するため。
 - ・内容によって共有の必要性を検討し、今後取り組んでいきたい。

分団活動調査の結果について(7)

(7) 毎年の分団調査の速報結果やYACホームページの他分団の活動報告について、リーダー等で共有確認していますか。

コメント概要



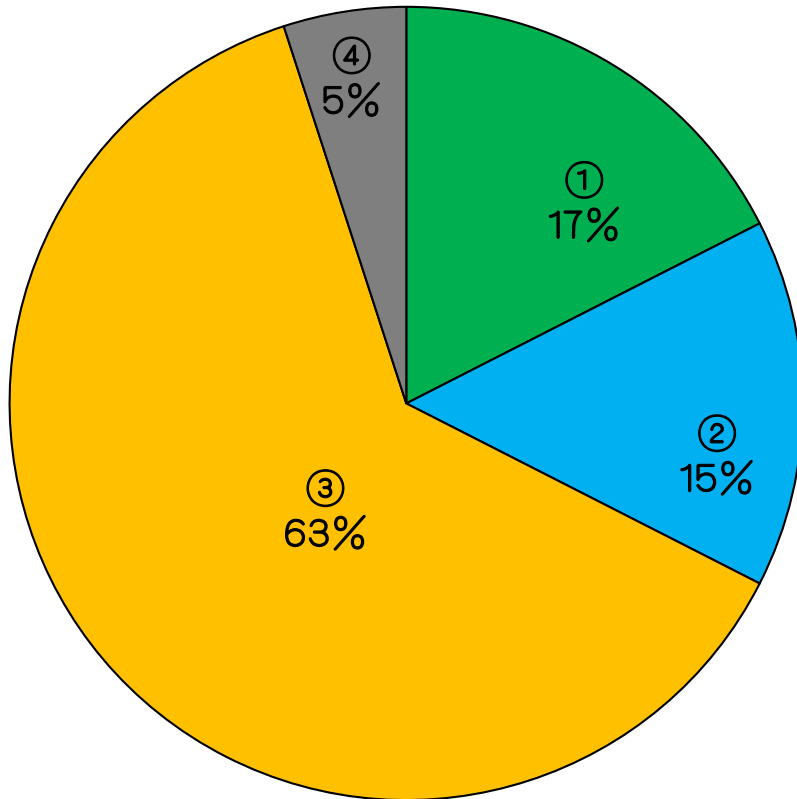
- ① 確認共有している
- ② 確認共有していない

- ①
 - ・メールや会報が届いた際には共有している。(メールの転送等)
 - ・メールやオンライン会議、Slack等を利用し、周知・共有している。
 - ・調査の内容を抜粋して共有したり、活動計画策定にYACのHPを活用している。
 - ・回覧や閲覧、情報意見交換会などで共有している。
- ②
 - ・各自でメールやHPを確認していると思うが、今後は勉強会などで共有できたらと思う。
 - ・他分団の活動報告は特に意識していません。
 - ・特に深い考えはないが、特別共有していませんでした。今後は共有をしていきたいと思います。

分団活動調査の結果について(その他)

(その他) オンラインツールを用いた活動を計画しますか。もしくは、計画する予定ですか。

コメント概要



- ① 計画する
- ② 計画する予定
- ③ 計画はしない
- ④ 計画したいが出来ない

- ①
 - ・他分団との連携や活動場所の確保が難しい場合など
 - ・オンラインの場合も対話を重視したプログラムの実施
 - ・EOブラウザの活用や配信の併用による活動の拡充
- ②
 - ・海外や遠方の講師にリモートでお話しいただくことや、遠方に住む団員からの希望があればオンライン活動を計画する。
 - ・対面での実施が困難な場合には選択肢とする。
- ③
 - ・現状においてオンライン活動での需要がないため(対面での開催を要望されている。)
 - ・工作や実験といった活動に有効ではないため
 - ・オンライン環境が一律でないことや、対面で行うことに改めて重要性を感じたため
- ④
 - ・遠隔地にいらっしゃる方にアドバイスをいただくときなどにはオンラインツールは有効かと考えられる。

Webサイト報告

～分団活動報告～

・全国の分団が行った活動を各分団ごとにYACのWebサイトに報告することができ、分団間で活動の情報を共有することができる。

※YACウェブサイト ホーム＞分団活動報告＞分団一覧から見る

(<https://www.yac-j.com/activity/group-list/>)



- ・全国の分団が年間計画や活動の内容を検討する際の資料
- ・活動内容の一層の充実と新たな取り組みへの挑戦の足掛かり

【令和3年度・令和4年度及び令和5年度の分団活動の報告件数の推移(Webサイト報告よりカウント)】

令和3年度 活動分	R3.11.6 時点	
	活動報告数	111
	活動報告分団数	27
令和4年度 活動分	R4.11.1 時点	
	活動報告数	118
	活動報告分団数	30
令和5年度 活動分	R5.11.1 時点	
	活動報告数	160
	活動報告分団数	32

※それぞれの年度の11月上旬時点で比較

※それぞれの年度に行われた活動の数をカウント

活動自体が出来てきていることが想定できると共に、WEB報告を行う分団が少しずつ増加してきている。

R5.11.1時点で、令和3年度～令和5年度の活動報告を25件以上報告いただいている分団が10分団ある。

2023年度分団表彰

2023年度を通して顕著な分団活動を実施した分団を表彰します

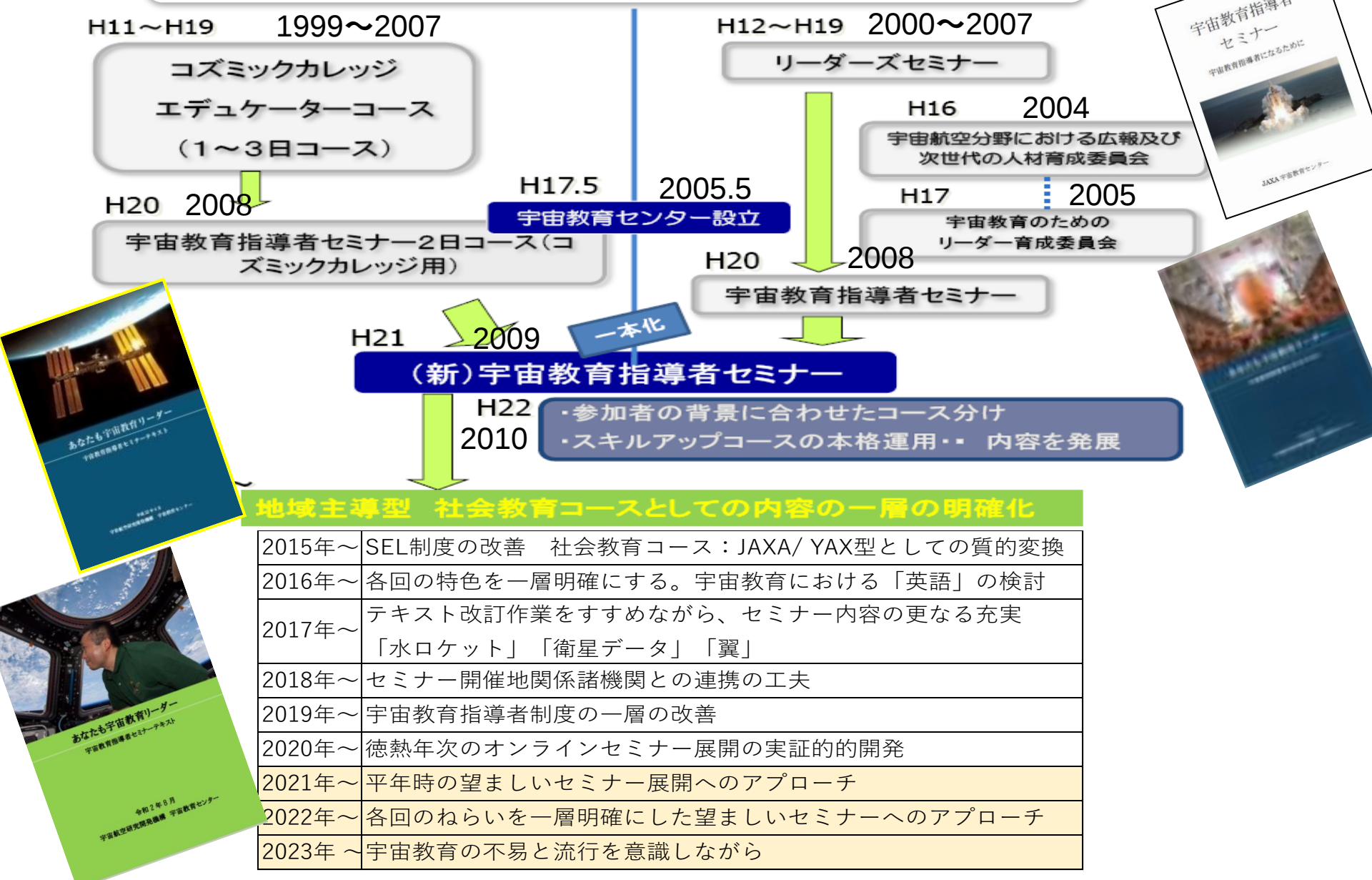
表彰分団は下記の通りです

- ・水沢Z分団
- ・ノシロ分団
- ・こおりやま分団
- ・分団サイエンスキッズみたか
- ・相模原分団
- ・北九州市分団

活動事例発表分団

- ・水沢Z分団
- ・こおりやま分団
- ・相模原分団
- ・焼津分団

指導者の育成セミナーの経緯



2023年度 宇宙教育指導者セミナー						
回	実施日	会場	実施形態		講座 種類	説 明
			対面	オンライン		
1	5月14日（日）	大分高専		○	スキルアッ プ	EOブラウザで衛星データ活用 EOブラウザの基本操作を習熟し、活用事例のノウハウを深める。
2	5月21日（日）	向井千秋記念こども科学館	○	○	標準	とことん水ロケット 「水ロケット」の教育的な価値、「指導言」「説明動画」「実習」「危機管理」
3	7月2日（日）	X-NIHONBASHI TOWER	○	○	入門	宇宙教育指導者に！ その1 Mitaka（ミタカ）とEOブラウザ、2つのデジタル教材の紹介と実習。
4	7月23日（日）	帯広畜産大学	○	○	標準	リモートセンシングと宇宙教育 リモートセンシングの原理，導入教材，衛星データ分析ソフトEISEI、EOブラウザの活用。農業分野とリモートセンシング。
5	8月20日（日）	広島大学東広島キャンパス	○	○	標準	人力飛行機を科学する 人力飛行機を題材に宇宙教育の場面で「飛ぶ」を探る。人力飛行機の建学。
6	9月9日（土）	金沢未来のまち創造館	○	○	標準	MITAKAにチャレンジ 「4次元デジタル宇宙ビューワー」MITAKAを身近に。
7	10月22日（日）	X-NIHONBASHI TOWER	○		入門	宇宙教育指導者に！ その2 プログラミング教育を宇宙教育として。Scratch実習。YAC実践例。
8	11月12日(日)	X-NIHONBASHI TOWER	○	○	標準	気象衛星「ひまわり」。気象予報，リモートセンシングと防災。JAXAひまわりモニターでひまわりデータ活用実習。地球の水循環について。水循環変動観測衛星「しずく」（GCOM-W）データの活用にもチャレンジ。
9	12月17日（日）	X-NIHONBASHI TOWER	○	○	スキルアッ プ	宇宙科学や宇宙開発に関する知識を深め日頃の宇宙教育活動に活かすヒントを得る。はやぶさ2，ホールスラスタ-とコンステレーション衛星，ブラックホールについて3人の講師の方々による宇宙ホンモノ講座。
10	1月28日（日）	熊本県青年会館	○	○	標準	地球観測衛星をきっかけに地元（地域）を知る

衛星データ利用コンテスト

だいいち2号に写ろう

今年度の応募作品は“ゼロ”でした が



恩納村赤間総合運動公園

赤間運動場

恩納村 赤間多目的運動場

沖縄県恩納村

活動委員会報告 支援活動推進部会：

- 分団の教材紹介ページの更新

<https://www.yac-j.com/labo/bundan-kyozai/>

- 教材集の更新

<https://www.yac-j.com/labo/kyozai-list/>

- 「宇宙教育」誌の発刊

<https://www.yac-j.or.jp/space-education/>

- 宇宙教育指導者セミナーにおける教材，教案紹介
水ロケット，衛星データ教育関連教材 等

- Web配信システム

宇宙教育指導者セミナー，YACオンライン教室(未定)



分団の教材紹介

YACの各分団からご報告をいただいた教材をご紹介します。
(公財) YACによる科学的知見のチェックや適実験による確認などは行っておりません。
下記の教材の利用による事故や損害等については、分団及び(公財) YACは一切の責任を負いませんので、予めご了承ください。
教材についてのお問合せは、分団名からリンクされている各分団のページ下にある「お問い合わせはこちら」よりお問い合わせください。
なお、教材内容の確認を行うため、年に1回から2回の更新になります。

教材名	分団名	参考資料/リンク	掲載日	改定日
 YACブレーン	龍林分団	作成手続・飛ばし方 型紙	2022.12.01	2023.01.18
 ブラックホール模型	水沢ノ分団	作成手続・参考資料・クイズ	2021.10.27	
 地球回転ゴマ	水沢ノ分団	作成手続・参考資料	2016.11.01	2018.10.27



3. 【報告】活動委員会報告・情報提供

（4）SKiP推進部会 YACかわら版

YACかわら版は、公益財団日本宇宙少年団（YAC）が、2020年3月3日の「西之島の変化を衛星データでみる」を創刊号としている。

新型コロナウイルス感染症対応として、YAC団員・家族・リーダーを対象として不定期にPDF版で刊行している。分団活動展開がままならぬ状況下での宇宙教育の情報の蛇口となることを意識していたが、2023年11月1日までに400号を重ねている。

かわら版の題材の領域概念の側面

どこかで衛星データ活用の文脈を大切にしながら
四季の巡り 宇宙開発 気象
美しい日本語 天体 火山活動
交通 SDGs... 研鑽と修養の場

かわら版の機能概念の側面

意識的に衛星データ活用と結び付けて
防災教育・防災学習 リモートセンシングの概念形成
活動の題材の提供 情報提供・広報活動
分団間の有機的な関連強化

データベースとしてのかわら版

自由研究・課題研究の「機」
活動の題材検索の「場」

かわら版に期待こめる願い

宇宙教育活動展開組織の課題

- ・活動内容の充実
- ・異年齢集団の活動集団化
- ・指導者の育成
- ・活動組織の運営

宇宙教育を
生き生きと前進

YACかわら版の方向性



継承と展開の視座

YACかわら版の話題提供

- ・常にこどもからの出発

新しい**家族・地域・学校**観

YACかわら版の継続性

- ・eventから日常性・継続性

eventとeventの**間**への着目

YACかわら版を巡る話題

- ・地域に根差す

社会教育のパワーの**組織化**

YACかわら版が一助に

号数	題 名
327	2023年のはじまり
328	直接体験を豊かに！
329	1月1日の日本周辺
330	三角州
331	南極のこと
332	コーンウォール宇宙港・ランチャーワン
333	移動する滑走路
334	西之島
335	自然災害伝承碑
336	海苔養殖
337	新冰山 A81
338	氷山の見える景色
339	自然災害伝承碑 2
340	流水初日
341	H3とだいち3
342	アクティブに学ぶ
343	チリ山火事
344	アクティブに学ぶ2
345	もっと「ひまわり8」画像 その3
346	アクティブに学ぶ3
347	松本零士先生前理事長を偲んで
348	アクティブに学ぶ4
349	イベラ国立公園
350	見方・考え方-カルマン渦を例に-
351	ISS駐機場
352	トルコとサンパウロの地滑り
353	ホタルイカ漁
354	クルー5・6
355	まもなく帰還
356	松本零士前理事長を偲んで2
357	おかえりなさい
358	スターリンクトレイン
359	ローンデポ・パーク
360	テラン1
361	JUICE
362	火山活動レポート
363	巨大コンテナ船 シートライアル
364	スターシップ
365	飛行機雲

号数	題 名
366	ispace（アイスペース）
367	魔女の瞳
368	飛行機雲2
369	ロケット雲？
370	自然災害伝承碑3
371	A81 その後
372	船舶の速度
373	SEP船
374	37.934722, 22.983889
375	若田宇宙飛行士ミッション報告会
376	黄砂
377	台風2号
378	洋上風力発電所2
379	野付半島
380	エアロゾル
381	ジャケット式基礎
382	マヨン火山
383	AMATERU-III
384	空をのぞく
385	西之島
386	アクティブに台風を探る
387	クルー7
388	スパイラルバンド
389	スペースシップ
390	氷河が...
392	台風避難船舶
392	ハワイ山火事
393	センチネル1-Cを待つ
394	アフリカの自然災害
395	飛行機の窓から
396	資料の活用
397	改めて黄砂
398	伊豆鳥島
399	富士山初冠雪
400	国境
401	硫黄島
402	海面温度と偏西風
403	有明海 海面温度
404	日本列島11月1日
405	硫黄島2

YAC水 Rocket コンテスト2023開催結果について

募集期間：2023.5.10～2023.10.31

【応募者】

作文の部 2名

アイデアの部 2名

【表彰】

作文の部 **優秀賞**

テーマ「将来こんな Rocket を作ってみたい」

東京日本橋分団 市川理貴 小4

特別賞

呉やまと分団 宮原田 誠 中1

アイデアの部

特別賞

水沢Z分団 千田悠介 中3 Rocketの上で Rocket を飛ばそう

特別賞

水沢Z分団 千田倖生 中1 飛行機 Rocket ～揚力で飛んで！

参考：製作及び打上げ実施分団数 26分団

麻生評価

千田悠介君 特別

内容

ゴムで引っ張った先端をストッパーで止めておきそれをひもでつなげておく。水ロケットの発射で射点から移動することによりひもでつないだストッパーが外れゴムで引っ張っていたミニロケットの台が後退して、今まであたっていなかった棒にあたる反動でミニロケットが前にとぶしかけ。

評価

水ロケットの発射で射点から移動することによりひもでつないだストッパーが外れることでミニロケットを発射するアイデアは面白いと思います。射点から予め定めた長さになるとミニロケットを発射する装置と理解できます。

ただ、本人も改善点で書いているが、塩ビパイプは重たいので材料の選定を工夫すればよいが、今回はアイデアを重視すればよいので5～6mでも飛ばせばよいと思う。残念なのはミニロケットは形状から見てスイングテストをしていないと思える。ちゃんとスイングテストをやって重心と圧力中心を考慮していれば水ロケットから分離してちゃんと飛んだと思う。

ミニロケットが押し出される方法にも工夫が必要ですね。今のままだとミニロケットは衝撃で前に飛んでいますね。

藤島コメント

中3 千田 悠介

輪ゴム鉄砲が親子ロケットの発想までつながるとはユニークですね。全体的によく考えられていて図も見やすいです。ただ、ストッパーの仕組みと動作順が少しわかりにくい感じですね。ミニロケットシステムの3部品が三つとも塩ビパイプというのは、結果欄にもある様に重量オーバーになります。又、改善点に書かれている項目は全て妥当なものですが、中でもストッパーの改善は重要です。ストッパーに求められる条件は、軽いのにゴム力に耐える、ゴムを強力にすると外れにくい、揺れや糸の張力などで外れにくいのに、発射時はすぐ外れる、と言った、相反するもので難しいものです。

他にも次の様な点を考えて改善に役立てて下さい。

○射出棒は木に替えてもまだ重いでしょう。発泡ポリスチロール棒など、他の材料をためしてください。

○輪ゴムは強い物を少ない本数にするか、弱くても本数で稼ぐか、どちらが軽量化に有効かを実験してみる。

○糸は一見軽い様に見えて、長くなると重さや空気抵抗による張力が飛行を邪魔し、飛行姿勢も崩します。テグスや建築用の水系（一般市販している）なども試すと良いかもしれません。

○射出棒だけでなく、全体的に発砲スチロール化を図ると格段に軽くなります。今はこの材料も様々な形状のものがいますので、100均店などでじっくり資材探索をしてみると良いでしょう。ミニロケットの12gもまだまだ軽量化できそうですよ。

全体的に良く工夫されていて、感想には苦労がにじみ出ています。次が楽しみですね。

麻生評価

千田倅生君 特別

内容

水ロケットにデルタ翼をつけ、飛行させた。

評価

見方を変えると、デルタ翼をつけた機体を、水ロケットの推進方法で発射台から打ち出した、といえます。アイデアは面白いと思います。デルタ翼の形状は、左右対称によくできていると思います。この場合は、デルタ翼をつけた機体としてまず、その機体が安定に飛行するかを調整する必要がある。普通の飛行機のように方向安定性を持たせるために垂直尾翼は必要です。デルタ翼であれば水平尾翼なしに安定に飛ばするためには工夫が必要です。デルタ翼をつけた機体を何度もグライダーみたいに投げて飛ばして工夫をして、それから飛ばすといいと思います。

後、“揚力があると重心が傾く”ことはありません。重心は作った機体だけで決まります。

スイングテストはロケットとしての飛行の安定性を保証するものですが、君のように翼をつけて揚力を使って飛ばそうとすると、今度はグライダー（動力のない飛行機）としての飛行の安定性を考える必要があります。

藤島コメント

中1 千田 倖生

飛行機ロケットの名は面白いですが、一般的にロケットは空気のないところを飛びますから、スペースシャトルの親戚になるかな。（シャトルが翼を使う時はエンジンは使いませんが。）

翼を紙粘土製にして揚力の発生しやすい翼断面を作ったのは一つの方法ですが、反面、翼重量では不利です。ここはやはり発泡ポリスチロールを削るか、竹ひごなどで組むかでしょうか。工作は少し厄介になりますが効果は大きいです。

ガイドや主翼の位置不適で不安定飛翔や縦回転をしたとありますが、ほかにも原因がありそうですね。翼の揚力を使うなら翼が水平を保たなければいけません。そのためにはやはり翼の位置を前へずらし、尾翼を付けなければなりません。シャトルも大きな垂直尾翼が姿勢を正しています。ノーズの重りが20gなのに翼の重量が34gあり、それに水の重さ400gが加わりますので、縦回転する要因になるでしょう。

しかし、それでも予想以上の飛翔距離があった様なので、今後の改良による飛翔改善には十分な期待ができますので、健闘を祈ります。

麻生評価

市川理貴君 “優秀”

ミチカロケットのアイデアは面白いと思います。家やホテルのように過ごせる宇宙ロケットですね。子供からお年寄りまで自由に宇宙にいけるロケットが欲しいですね。ホーキング博士のスペースアドベンチャーシリーズを読んでその宇宙観に引き込まれたとはびっくりです。いるなんてすごいです。しかもちゃんと科学的な考え方をしていると思います。このような子供たちが増えて宇宙がより発展することを期待しています。

藤島コメント

市川 理貴 小4

宇宙を身近に感じたいという気持ちは理解できます。宇宙はロマンを感じさせますが、命に係わる危険に満ちていますからね。

具体的な視点として、無重力でない空間にする（宇宙を体感する大前提）、身近に感ずる設備（バスルーム、ベッド、太陽光発電など）を整えるなど、具体的な例を挙げているのはわかりやすいですね。

中でも、秒速7.7kmの速度を楽しむとありますが、これはどちらかと言えば身近な事ではないですが、宇宙を身近に感ずることにはなるかもしれません。でも船内から見たこの速度の景色は多分ちっとも高速感を感じさせないし、定速運行中の船内では動きすら感じないかもしれません。さて、これを宇宙感たっぷりにしかも安全に楽しむにはどうすればよいのでしょうか？、考えてみて下さいね。

麻生評価

宮原田 誠君 “特別 “

バイオマスロケットの提案ですね。作文ではロケットにバイオマスを積み、ごみを燃焼させるとあります。バイオマスについて調べると、「動植物から生まれた、再利用可能な有機性の資源（石油などの化石燃料を除く）」のことです。主に木材、海草、生ゴミ、紙、動物の死骸・ふん尿、プランクトンなどを指します、とあります。作文ではその一つとしてゴミを燃料として燃焼させるとありますが、そこで得られるエネルギーではロケットは地上から離陸できないと思います。確かに環境にやさしいロケットになると思いますが少し工夫がいると思います。

バイオマスからメタンガスを取り出してそれをロケットの燃料にしたり、藻からケロシンを作ってそれをロケットの燃料にしたりするといいと思います。そういった新しい発想に気付かされた作文でした。

藤島コメント

中1 宮原田 誠

生ごみは、処分と積極的な利用が同時になされるならこんな良い事はないし、しかもそれがロケット燃料化できるとなれば、最高ですね。

ですが、具体的にはどうすればよいのでしょうか？。本格的な製法は勿論判る筈はありませんがどうすれば燃料化できるのか、出来れば自分なりの1例でも良いですから考えてみて下さい。そうすると、燃料化した時に本当に重量は他の燃料よりも軽いのか？とか、衛星や宇宙船に積んだ時にスペース的に優れているのか（タンク容量）とか、色々な事が何となく想像できるのではないのでしょうか。

図を見ると、燃料タンクには勿論すでに燃料化されたものが入っている感じですが、大規模な宇宙ステーションや宇宙コロニーの場合は、原料のままの貯蔵も必要になるかと思います。その時にはどんな対策や方法が必要になるのでしょうか。考える事はたくさんありますが、もし比較的簡単に燃料化出来て、エネルギーもたくさん含まれているとなれば、これは環境問題の一つの突破口になりますね。

就学前子どもの育ちの方向性

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 …… 「10の姿」「3つの視点・5つの領域」「3つの資質・能力」

☆「あそび」を基本とした様々な活動を通して育む☆

10の姿

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の
芽生え

社会生活との
関わり

思考力の
芽生え

自然との関わり・
生命尊重

数量や図形、
標識や文字など
への関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性と表現

3つの視点・5つの領域

健康

人間
関係

環境

言葉

表現

健やかに伸び伸びと育つ
(身体的発達の視点)

身近な人と気持ちを通じ合う
(社会的発達の視点)

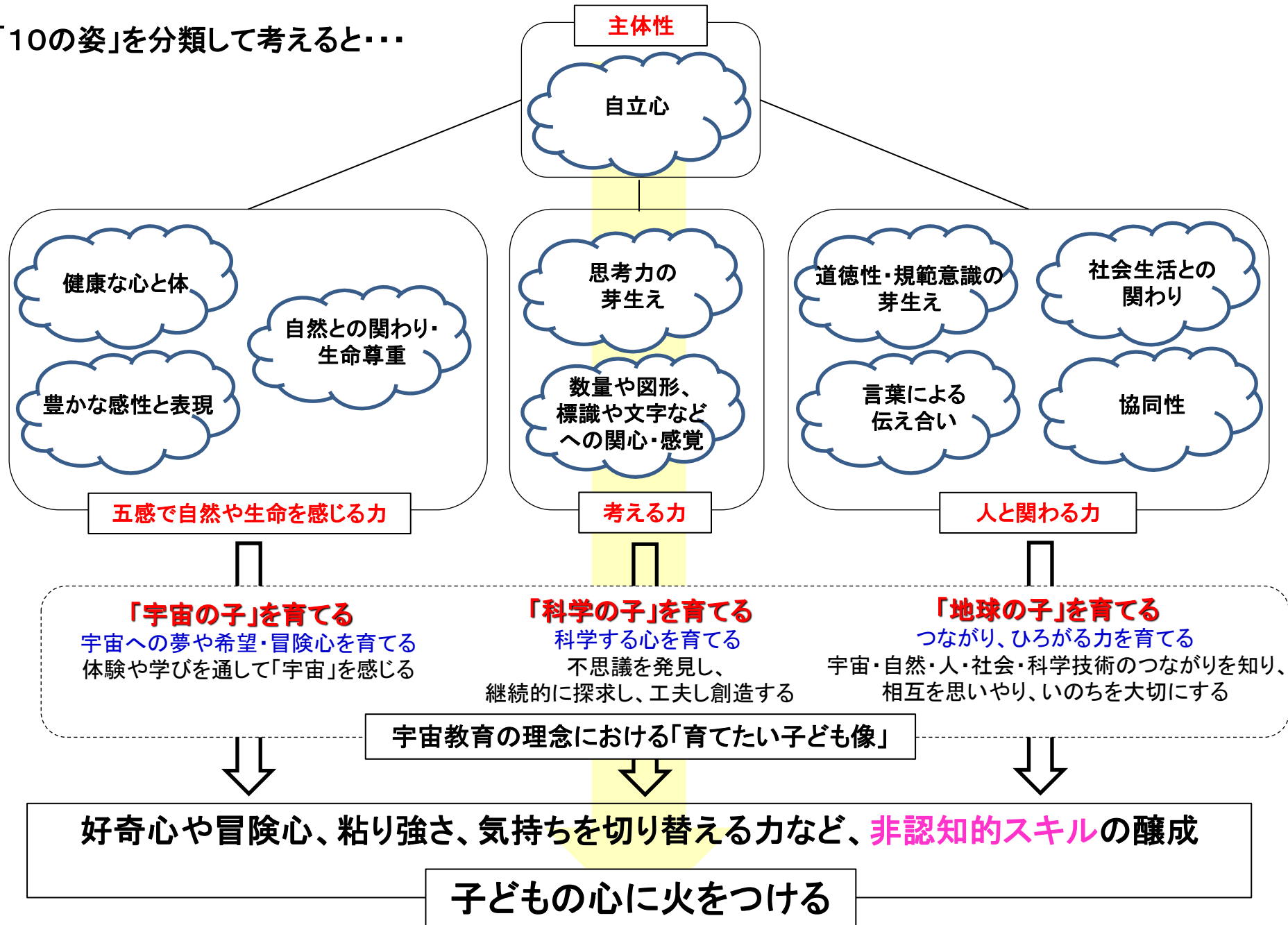
身近なものと関わり感性が育つ
(精神的発達の視点)

3つの資質・能力

- 豊かな体験を通して、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする ……「知識及び技能の基礎」
- 気付いたことや、できるようになったことを使い、……「思考力、判断力、表現力等の基礎」
考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする
- 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする ……「学びに向かう力、人間性等」

就学前子どもの育ちの方向性

「10の姿」を分類して考えると・・・



「環境を通して行う教育保育」を基本とする

(※幼保連携型認定こども園 教育保育要領解説より引用まとめ)

- 安心感と信頼感をもって活動に取り組むこと
- 園児の主体的な活動を促し、乳幼児期にふさわしい生活を展開すること
- 遊びを通しての指導を中心として教育保育要領に示すねらいが総合的に達成されるようにすること
- 園児一人一人の発達の特性に応じること

※環境とは物的な環境だけでなく、他の園児や関わる大人(先生)という人的なものも含めた全て

・ハード面 ⇒ 空間的な物的環境

・ソフト面 ⇒ 関わる大人(先生)の質などの人的環境

} 共に重要



こどもの「生きる力」を育てる



義務教育の動向

（令和の日本型教育と
教育振興基本計画から）

日本宇宙少年団金沢支部

加藤隆弘

（金沢大学大学院教職実践研究科）

前回（昨年）のお話

- これからの社会でもとめられること
- いまの子どもたちを取り巻く状況（課題など）
- 「令和の日本型教育」の概要
- かわる学校での学び
- **ESD**（持続可能な社会をつくるための教育）
/SDGsの観点から

今回のお話

- おさらい「令和の日本型教育」
- 教育振興基本計画（23年6月～）
- 宇宙教育、宇宙少年団活動の観点から
- まとめ～ポストコロナの活動

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（イメージ）

主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

主体的・対話的で深い学び

学習指導要領 総則 第3 教育課程の実施と学習評価

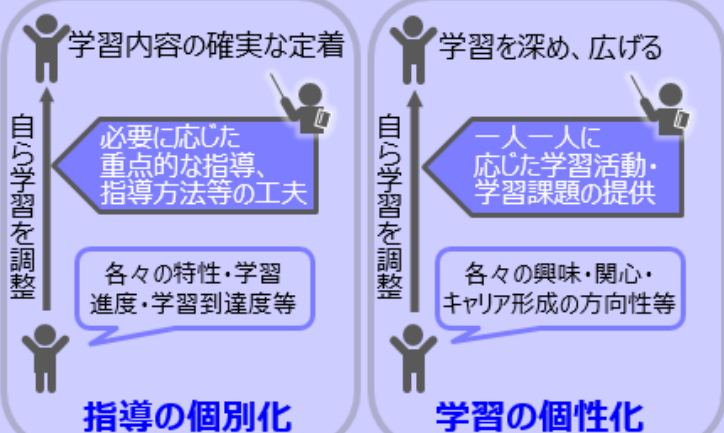
学習指導要領 総則 第4 児童(生徒)の発達の支援

授業改善

一体的に
充実

授業外の
学習の改善

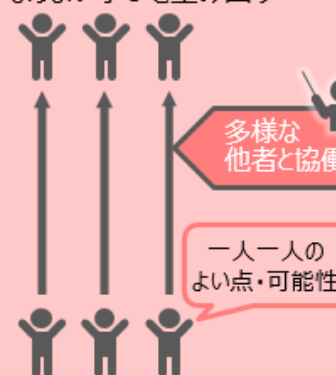
資質・能力の育成



個別最適な学び（教師視点では「個に応じた指導」）

修得主義 ・個々人の学習状況に応じて学習内容を提供 ・一定の期間における個々人の学習の状況・成果を重視
の考え方を生かす

異なる考え方が組み合わせり
よりよい学びを生み出す



協働的な学び

・集団に対して共通に教育を行う ・一定の期間の中で個々人の多様な成長を包含

クラスメイト

異学年・他校の子供

地域の人

専門家

等

これからの学校には……一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

平成29,30年改訂
学習指導要領 前文

履修主義
の考え方を生かす

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

①個別最適な学び（「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念）

- ◆ 新学習指導要領では、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図るとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることが示されており、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが必要
- ◆ GIGAスクール構想の実現による新たなICT環境の活用、少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実していくことが重要
- ◆ その際、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開し、個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、子供たちに必要な力を育む

指導の個別化

- 基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、
・支援が必要な子供により重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現
・特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う

学習の個性化

- 基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する

- ◆ 「個別最適な学び」が進められるよう、これまで以上に子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる
- ◆ その際、ICTの活用により、学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータ、健康診断情報等を利活用することや、教師の負担を軽減することが重要

それぞれの学びを一体的に充実し 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

②協働的な学び

- ◆ 「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要
- ◆ 集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出す
- 知・徳・体を一体的に育むためには、教師と子供、子供同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験、地域社会での体験活動など、様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことの重要性が、AI技術が高度に発達するSociety5.0時代にこそ一層高まる
- 同一学年・学級はもとより、異学年間の学びや、ICTの活用による空間的・時間的制約を超えた他の学校の子供等との学び合いも大切

新たな教育振興基本計画【概要】（令和5年度～9年度）

我が国の教育をめぐる現状・課題・展望

教育の普遍的な使命：学制150年、教育基本法の理念・目的・目標（不易）の実現のための、社会や時代の変化への対応（流行）

【社会の現状や変化】

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大
- ・ロシアのウクライナ侵略による国際情勢の不安定化
- ・VUCAの時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）
- ・少子化・人口減少や高齢化
- ・グローバル化・地球規模課題
- ・DXの進展、AI・ロボット・グリーン（脱炭素）
- ・共生社会・社会的包摂
- ・精神的豊かさの重視（ウェルビーイング）
- ・18歳成年・こども基本法 等

第3期計画期間中の成果

- ・（初等中等教育）国際的に高い学力水準の維持、GIGAスクール構想、教職員定数改善
- ・（高等教育）教学マネジメントや質保証システムの確立、連携・統合のための体制整備
- ・（学校段階横断）教育費負担軽減による進学率向上、教育研究環境整備や耐震化 等

第3期計画期間中の課題

- ・コロナ禍でのグローバルな交流や体験活動の停滞
- ・不登校・いじめ重大事態等の増加
- ・学校の長時間勤務や教師不足
- ・地域教育力の低下、家庭を取り巻く環境の変化
- ・高度専門人材の不足や労働生産性の低迷
- ・博士課程進学率の低さ 等

次期計画のコンセプト

2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

- ・将来の予測が困難な時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、**持続可能な社会**を維持・発展させていく
- ・社会課題の解決を、経済成長と結び付けて**イノベーション**につなげる取組や、一人一人の**生産性向上**等による、**活力ある社会の実現**に向けて「**人への投資**」が必要
- ・**Society5.0**で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

日本社会に根差したウェルビーイング（※）の向上

- ・多様な個人それぞれが**幸せや生きがい**を感じるとともに、**地域や社会が幸せや豊かさ**を感じられるものとなるための教育の在り方
- ・幸福感、**学校や地域でのつながり**、利他性、協働性、自己肯定感、自己実現等が含まれ、協調的幸福と獲得的幸福のバランスを重視
- ・**日本発の調和と協調（Balance and Harmony）**に基づくウェルビーイングを発信

※身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

今後の教育政策に関する基本的な方針

①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成

- ・主体的に社会の形成に参画、持続的社会的発展に寄与
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、大学教育の質保証
- ・探究・STEAM教育、文理横断・文理融合教育等を推進
- ・グローバル化の中で**留学等国際交流**や大学等国際化、外国語教育の充実、SDGsの実現に貢献するESD等を推進
- ・リカレント教育を通じた高度人材育成

②誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進

- ・子供が抱える困難が多様化・複雑化する中で、個別最適・協働的学びの一体的充実やインクルーシブ教育システムの推進による**多様な教育ニーズへの対応**
- ・支援を必要とする子供の**長所・強みに着目**する視点の重視、**地域社会の国際化**への対応、**多様性、公平・公正、包摂性（DE&I）**ある**共生社会の実現**に向けた教育を推進
- ・ICT等の活用による学び・交流機会、アクセシビリティの向上

人生100年時代に複線化する生涯にわたって**学び続ける**学習者

③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進

- ・持続的な**地域コミュニティの基盤形成**に向けて、**公民館等の社会教育施設の機能強化**や**社会教育人材の養成と活躍機会**の拡充
- ・**コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進**、家庭教育支援の充実による**学校・家庭・地域の連携強化**
- ・**生涯学習**を通じた自己実現、地域や社会への貢献等により、**当事者として地域社会の担い手**となる

④教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進

DXに至る3段階（電子化→最適化→新たな価値（DX））において、第3段階を見据えた、**第1段階から第2段階への移行の着実な推進**

GIGAスクール構想、情報活用能力の育成、校務DXを通じた働き方改革、教師のICT活用指導力の向上等、DX人材の育成等を推進

教育データの標準化、基盤的ツールの開発・活用、**教育データの分析・利活用**の推進

デジタルの活用と併せてリアル（対面）活動も不可欠、学習場面等に応じた最適な組合せ

⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話

学校における働き方改革、処遇改善、指導・運営体制の充実の一体的推進、ICT環境の整備、経済状況等によらない学び確保

NPO・企業等多様な担い手との連携・協働、安全・安心で質の高い教育研究環境等の整備、児童生徒等の安全確保

各関係団体・関係者（子供を含む）との対話を通じた計画の策定等

今後の教育政策の遂行に当たっての評価・投資等の在り方

教育政策の持続的改善のための評価・指標の在り方

- ・客観的な根拠を重視した教育政策のPDCAサイクルの推進
- ・データ等を分析し、企画立案等を行うことのできる行政職員の育成
- ・調査結果（定量・定性調査）に基づく多様な関係者の対話を通じた政策・実践の改善
- ・教育データ（ビッグデータ）の分析に基づいた政策の評価・改善の促進

教育投資の在り方

「人への投資」は成長の源泉であり、成長と分配の好循環を生み出すため、教育への効果的投資を図る必要。**未来への投資としての教育投資**を社会全体で確保。**公教育の再生**は少子化対策と経済成長実現にとっても重要であり、取組を推進する。

①教育費負担軽減の着実な実施及び更なる推進

- ・幼児教育・保育の無償化、高等学校等就学支援金による授業料支援、高等教育の修学支援新制度等による教育費負担軽減を着実に実施
- ・高等教育の給付型奨学金等の多子世帯や理工農系の学生等の中間層への拡大等

②各教育段階における教育の質の向上に向けた環境整備

- ・GIGAスクール構想の推進、学校における働き方改革、処遇改善、指導・運営体制の充実、教師の育成支援の一体的推進
- ・国立大学法人運営費交付金・私学助成の適切な措置、成長分野への転換支援の基金創設
- ・リカレント教育の環境整備、学校施設・大学キャンパスの教育研究環境向上と老朽化対策等

OECD諸国など諸外国における公財政支出など教育投資の状況を参考とし、必要な予算について財源を措置し、真に必要な教育投資を確保

今後5年間の教育政策の目標と基本施策

教育政策の目標	基本施策（例）	指標（例）
1. 確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成	○個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実 ○新しい時代に求められる資質・能力を育む学習指導要領の実施 ○幼児教育の質の向上 ○高等学校教育改革 ○大学入学者選抜改革 ○学修者本位の教育の推進 ○文理横断・文理融合教育の推進 ○キャリア教育・職業教育の推進 ○学校段階間・学校と社会の接続の推進	・OECDのPISAにおける世界トップレベル水準の維持・到達 ・授業の内容がよく分かる、勉強は好きと思う児童生徒の割合 ・将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 ・高校生・大学生の授業外学修時間 ・PBL（課題解決型学習）を行う大学等の割合 ・職業実践力育成プログラム（BP）の認定課程数
2. 豊かな心の育成	○道徳教育の推進 ○発達支持的生徒指導の推進 ○いじめ等への対応、人権教育 ○児童生徒の自殺対策の推進 ○体験・交流活動の充実 ○読書活動の充実 ○伝統や文化等に関する教育の推進 ○文化芸術による子供の豊かな心の推進	・自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合 ・人が困っている時は進んで助けたいと考える児童生徒の割合 ・自然体験活動に関する行事に参加した青少年の割合
3. 健やかな体の育成、スポーツを通じた豊かな心身の育成	○学校保健、学校給食・食育の充実 ○生活習慣の確立、学校体育の充実・高度化 ○運動部活動改革の推進と身近な地域における子供のスポーツ環境の整備充実 ○アスリートの発掘・育成支援	・朝食を欠食する児童生徒の割合 ・1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合 ・卒業後もスポーツをしたいと思う児童生徒の割合
4. グローバル社会における人材育成	○日本人学生・生徒の海外留学の推進 ○外国人留学生の受入れの推進 ○高等学校・高等専門学校・大学等の国際化 ○外国語教育の充実	・日本人学生派遣50万人、外国人留学生受入れ40万人（2033まで） ・英語力について、中・高卒業段階で一定水準を達成した割合
5. イノベーションを担う人材育成	○探究・STEAM教育の充実 ○大学院教育改革 ○高等専門学校の高度化 ○理工系分野をはじめとした人材育成及び女性の活躍推進 ○起業家教育（アントレプレナーシップ教育）の推進 ○大学の共創拠点化	・修士入学者数に対する博士入学者数の割合 ・自然科学（理系）分野を専攻する学生の割合 ・大学等における起業家教育の受講者数
6. 主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成	○子供の意見表明 ○主権者教育の推進 ○消費者教育の推進 ○持続可能な開発のための教育（ESD）の推進 ○男女共同参画の推進 ○環境教育の推進 ○災害復興教育の推進	・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合 ・学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると答える児童生徒の割合

ウェルビーイングの向上について（次期教育振興基本計画における方向性）

ウェルビーイングとは

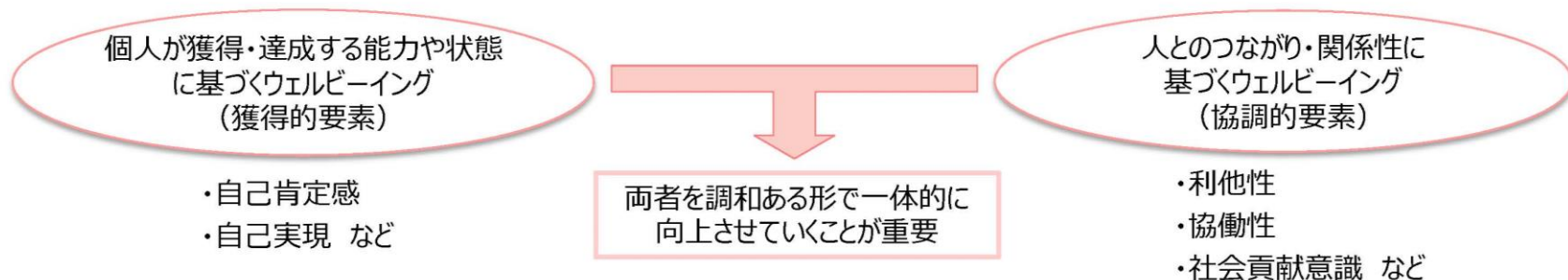
- **身体的・精神的・社会的に良い状態**にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる**持続的な幸福**を含む概念。
- 多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念。

なぜウェルビーイングが求められるのか

- 経済先進諸国において、GDPに代表される経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える考え方が重視されてきている。
- OECD（経済協力開発機構）の「Learning Compass2030（学びの羅針盤2030）」では、個人と社会のウェルビーイングは「私たちが望む未来（Future We Want）」であり、社会のウェルビーイングが共通の「目的地」とされている。

日本発・日本社会に根差したウェルビーイングの向上

日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、**自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素**を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した**「調和と協調」に基づくウェルビーイング**を教育を通じて向上させていくことが求められる。



⇒日本の特徴・良さを生かし、「調和と協調（Balance and Harmony）」に基づくウェルビーイングを日本発で国際発信

【例：インドネシアG20教育大臣会合・議長サマリー】

（略）to work towards the achievement of balanced and harmonious oriented well-being and universal quality education by 2030.

教育とウェルビーイング

- ・不登校やいじめ、貧困など、コロナ禍や社会構造の変化を背景として子供たちの抱える困難が多様化・複雑化する中で、一人一人のウェルビーイングの確保が必要
- ・子供・若者に、つながりや達成などからもたらされる自己肯定感を基盤として、主体性や創造力を育み、持続可能な社会の創り手の育成を図る必要
- ・地域における学びを通じて人々のつながりやかかわりを作り出し、共感的・協調的な関係性に基づく地域コミュニティの基盤を形成

(教育に関連するウェルビーイングの要素)

自己肯定感

心身の健康

幸福感
(現在と将来、
自分と周りの他者)

協働性

社会貢献意識

学校や地域での
つながり

自己実現
(達成感、キャリア意識等)

安全安心な環境

多様性への理解

利他性

サポートを受けられる環境

教育活動全体を通じたウェルビーイングの向上

(各要素を育む教育活動の例)

個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実
ー子供たちの多様な状況に応じた学習者主体の学び、多様な他者と協働した学び
ーきめ細やかな指導を通じた確かな学力の育成

多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂による共生社会の実現に向けた学び・生徒指導
ー特別支援教育、いじめ・不登校対応 等

地域や家庭で共に学び合う環境整備
ーコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
ー社会教育を通じた地域コミュニティ形成

キャリア教育・職業教育、課題解決型学習
ー社会的・職業的自立に向けたキャリア発達
ー地域や社会の課題解決型学習

豊かな心・健やかな体の育成、安全・安心
ー道徳教育、体験活動、学校保健の推進
ー学校施設の整備、学校安全の推進

グローバル社会における国際交流活動
ー海外留学推進、外国人留学生受入れ
ー地域社会の国際化、多文化共生

主観的認識のエビデンス把握

(関連する主観的指標)

- 自分にはよいところがあると思う
- 将来の夢や目標を持っている
- 授業の内容がよく分かる
- 勉強は好きと思う

- 自分の幸福感
- 友人関係の満足度
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい
- 人が困っているときは進んで助けている

- 学級をよくするために互いの意見の良さを生かして解決方法を決める
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う
- 先生は自分のいいところを認めてくれる
- 困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる

Society 5.0において企業が求める能力・資質

第5回教育振興基本計画部会
日本経済団体連合会提出資料より

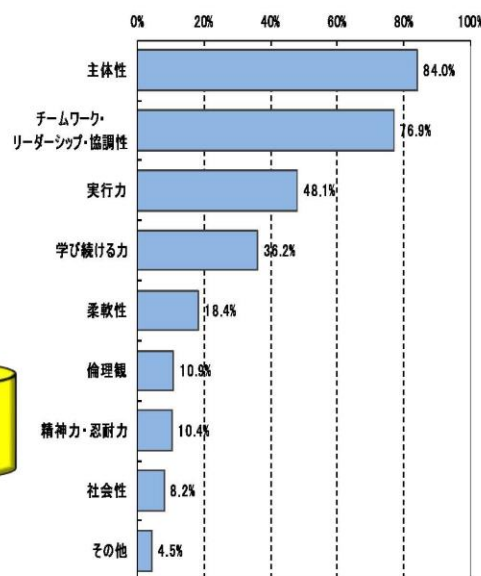
- Society 5.0人材には、**リテラシー**（数理的推論、データ分析力など）、**論理的思考力と規範的判断力**、**課題発見・解決能力**、**未来社会を構想・設計する力**、**高度専門職に必要な知識・能力**が求められる。
〔産学協議会における産学間合意〕
- 経団連アンケートによると、企業は**多種多様な人材**を求めつつ、特に期待する**資質**として、回答企業の約8割が「**主体性**」「**チームワーク・リーダーシップ・協調性**」、4割近い企業が「**学び続ける力**」を選択。特に期待する**能力**としては、「**課題設定・解決能力**」「**論理的思考力**」「**創造力**」が上位。

< Society 5.0で求められる能力と資質 >

（産学協議会での合意事項）

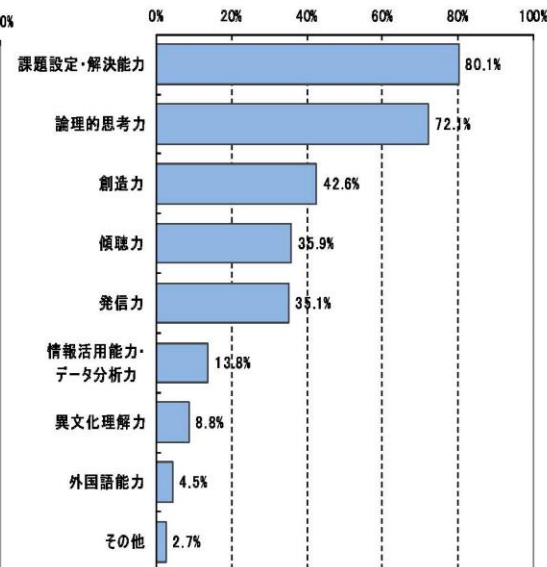


< 特に期待する資質 >



(n=376)

< 特に期待する能力 >



(n=376)

【採用と大学教育の未来に関する産学協議会「中間とりまとめと共同提言」(2019年4月22日)、経団連「Society 5.0 -ともに創造する未来-」(2018年11月13日)を基に経団連事務局にて作成】

注：3つまで回答可

【出典：経団連「採用と大学改革への期待に関するアンケート結果」(2022年1月18日)】

教育振興基本計画まとめてみると

- 「持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」
- 持続可能性、強靱さ（レジリエンス）を備えた社会を構築する
- 1) 現時点で予測される社会の課題や変化に対応する視点、
2) 予測できない未来に向けて自ら社会をつくり出す視点
- デジタル人材とグリーン（脱酸素）人材
- 誰一人取り残すことなく、誰もがいきいきとした人生を享受できる共生社会の実現
- 主体性、リーダーシップ、創造力、課題設定・解決能力、論理的思考力、表現力、チームワーク → 多様な価値観に基づいて地球規模課題の解決等を牽引する人

宇宙教育、宇宙少年団活動の 観点から

- 日頃の活動を通して、楽しみながら仲間、大人達とともに培う「宇宙」をフィールドに、学校とは異なる学び、育ちの機会 ...

- 問題、課題 → やりたいことを発見し、それを整理.....解決可能（不可能なもの）な具体問題に小分けにし、
- 見通し.....解決方法、期間、人手、資金、資材.....をもち、
- 実際に問題解決の過程のいずれかに関わり、
- 一つずつ問題解決し、
- よりよい状況をつくり出す。 やって良かった！ → 次のやりたいこと（夢、希望、自ら見つけた課題...）につなげる。
- 自分で見つけ、感じ取り.....よく考え、 試行錯誤、工夫して取り組む

→ リーダーは機会提供し、ファシリテートし...先達として見守り、話を聞き、つなげ、試行錯誤→実現を支える

「宇宙」→まだ明らかでないこと・できないことへのチャレンジの歴史

義務教育の動向を踏まえて まとめ

- ポストコロナの学び、活動を見据えて
 - 個別最適な学び、協働的な学び
 - 体験し実感ある学び、個に応じた深める学び
 - 一人一人の「学びたい」「やってみたい」「かかわりたい」...を大切に
 - さらに「その先」の取り組み、学びへつなげる
 - とともに取り組む仲間を日本、世界へ広げる
 - →NextGIGAをにらみながら、リアル/オンラインの相互補完

宇宙少年団共通活動テーマ
(2023年度～2032年度)

新たな挑戦
地球型惑星を目指して



目標と活動内容

<主旨>

- ・ YACらしい教育目標を明確にして宇宙教育の輪を広げ活動を展開することにより、宇宙時代を担う青少年の育成のための一助とする
- ・ 同じ気概を持って活動する仲間を得ることで、全国の分団活動に一体感を創り、団員・リーダー間の情報交換・交流に資する
- ・ 1サイクル目の活動を2サイクル目に活かすことを前提に、OB・OGをリーダーとして呼び戻し、持続可能な分団活動につなげる

<実施内容>

- ・ YACらしさの一つとして、知識獲得よりも想像力強化を目指したテーマ設定
- ・ ウェブ上の交流の場（ホームページ）を積極的に活用し、さらに皆さんの積極的なインプットによりこのプラットフォームの進化を目指す
- ・ 最新情報の提供（人・場所・モノのほんものの体験）、共通の話題づくり（オンデマンド講義）
- ・ 年間活動の総決算（全国ワークショップ）を行う

ウェブ上の交流の場「新たな挑戦地球型惑星を目指して」



※このホームページは若手リーダー有志が作成し運営しております。徐々に充実させていく予定です。

各年度のテーマ

実施年度	活動テーマ	指導内容	参考
2023年度	太陽系惑星と地球	体系の惑星と地球を比較しながら私たちの住む地球を知る	ここをクリック
	地球（I）	人類がどのようにして文明を発展してきたかを知る	

豊田彩人リーダー作

<https://toward-earth-like-planets.yac-j.or.jp/>

想像力強化を目指したテーマ設定 かつ持続可能なプログラム（5年計画×2サイクル）

実施年度	活動テーマ	指導内容	参考
2023年度 2028年度	太陽系惑星と地球	太陽系の惑星と地球を比較しながら私たちの住む地球を知る	クリック
2024年度 2029年度	地球（Ⅰ） 地球（Ⅱ） 地球（Ⅲ）	人類がどのようにして文明を発展してきたかを知る 様々な災害が発生する中で現在の地球の状態を知る 地球上に住む生き物の特徴を知り比較する	クリック
2025年度 2030年度	宇宙開発（Ⅰ） 宇宙開発（Ⅱ）	宇宙開発の歴史と現状を知る 宇宙開発の近未来を探る	クリック
2026年度 2031年度	テクノロジーの未来 地球の未来を想像する	100年前のテクノロジーから現在に至るまでの発展を知り未来のテクノロジーを想像する 未来（大人になった時）を総合的に想像する	クリック
2027年度 2032年度	地球外生命	生命がいる条件やどのような生き物なのかを想像する	クリック

次年度（2024）テーマ「地球」に関連した 例会テーマ例

＜学ぶ＞ 海、陸、気象などの基本データを提供

- ・ 人類が文明を発展させてきた歴史を知る（土木工学）
- ・ 様々な災害が発生する中で現在の地球の状態を知る（地球温暖化）
- ・ 地球上に住む生き物の特徴を知り比較する

「若手リーダー懇談会の議論」「オンデマンド講義」も
利用ください。

＜想像する＞ 問いかけ

- ・ もし、地球に海が、陸が、大気がなかったら？
- ・ もし、地球が公転、自転、地軸の傾きがなかったら？
- ・ もし、地球に大気、地磁気がなかったら、
- ・ もし、地球がもっと大きかったら、太陽から離れていたら？

リーダーはファシリテーターの役割を

① 専門家によるオンデマンド講義（30分）

2023年度「太陽系惑星と地球」



「宇宙から見る地球の水循環」

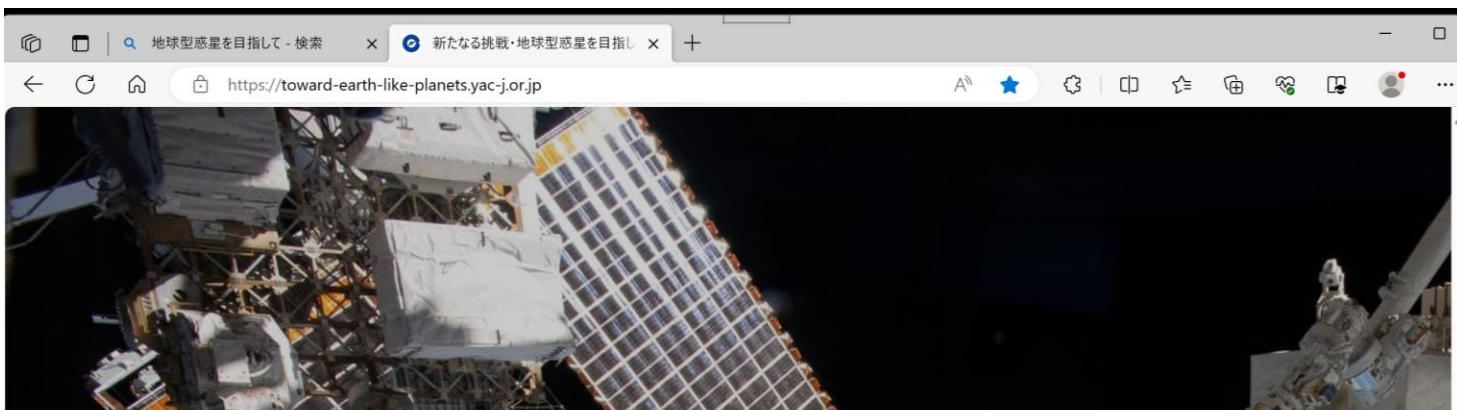
- 山本晃輔氏
- JAXA地球観測研究センター
- 水文学、衛星リモートセンシング



「大きな望遠鏡で惑星が生まれる現場を見る」

- 山口正行氏
- 台湾中央研究院天文及天文物理研究所
- 電波天文学、惑星形成
- たまご分団リーダー

② 専門家によるオンデマンド講義へのフィードバック



ビデオ講義への質問・感想コーナー(NEW!!)

講師の先生へみんなからの質問・感想を送ろう！

講義テーマ

【11月より各分団員へオンデマンド公開！】 2023年度オンデマンド講義2「大きな望遠鏡で惑星が生まれる現場を見る」

講師 [山口正行さんへの質問・感想はこちら](#)

【11月より各分団員へオンデマンド公開！】 2023年度オンデマンド講義1「宇宙から見る地球の水循環」

講師 [山本晃輔さんへの質問・感想はこちら](#)



講義テーマ

2023年度オンデマンド講義2「大きな望遠鏡で惑星が生まれる現場を見る」

質問・感想の投稿は↓のフォームからしてね！

投稿する！

2023年度オンデマンド講義2「大きな望遠鏡で惑星が生まれる現場を見る」について、講師の先生へ質問・感想を送ろう。

[Google](#) にログインすると作業内容を保存できます。[詳細](#)

ニックネーム

サイトに掲載されるニックネームをご記入ください。

回答を入力

所属(〇〇分団)

選択

質問・感想を送りますか？回答しますか？

☐ 質問・感想を送る！

☐ 回答する！

内容をここに書いてね！

回答を入力

送信

フォームをクリア

③ 関連する例会の情報交換

ホームページの[分団活動ページ](https://toward-earth-like-planets.yac-j.or.jp/active/)を参考に

<https://toward-earth-like-planets.yac-j.or.jp/active/>

このページへの情報提供はYAC分団活動計画・活動報告記入の際に「新たな挑戦」にチェックを入れてください。

https://www.yac-j.or.jp/community/?m=pc&a=page_o_event_search

出欠確認期限	----▼年 --▼月 --▼日
参加費	☒ なし ☐ あり [100文字以内]
参加定員	※制限がない場合は記入しないでください。
活動分野 ※ (複数可)	☐ 宇宙開発(ロケット・人工衛星など) ☐ 宇宙飛行士・宇宙での生活 ☐ 科学一般(物理・化学・地学など) ☐ 活動報告が表示されるのですが、 ☐ 工学一般(機械・ロボティクス・材料・電気など) ☐ コンピュータ関連 ☐ 人文科学・芸術(歴史・文化・法律・経済など) ☐ 社会貢献・社会奉仕 ☐ 自然・動物 ☐ 環境 ☐ 新たな挑戦・地球型惑星を目指して その他: [40文字以内]
活動内容 ※ (複数可)	☐ 工作 ☐ 実験 ☐ 創作 ☐ 講演 ☐ 交流 ☐ 観察・観測 ☐ 調査・分析 ☐ スポーツ・運動 ☐ 座学・学習 ☐ 体験・見学 その他: [40文字以内]

専門家によるオンデマンド講義（約30分） 2024年度「地球」 講演者募集

特に各分団のリーダーや、分団OB/OGでお引き受けいただける方を募集します。



3. 【報告】活動委員会報告・情報提供 (5) 情報提供

分団活動報告データベースはYACの宝



分団活動報告

<https://www.yac-j.com/activity/>

次の項目で活動が報告されています

活動日・期間

活動場所

参加者 総数: ・団員 ・他分団員・本部所属団員: ・体験入団者
・指導員 ・保護者・その他参加層(活動対象)

望ましい経験年数

活動費総額

活動形態

食材・食品の取り扱い

活動分野・内容

- ・活動分野・科学一般(物理・化学・地学など)
- ・工学一般(機械・ロボティクス・材料・電気など)

・活動内容

- ・工作
- ・実験
- ・座学・学習

活動の流れ

活動の留意点・安全対策

活動使用教材

活動アイデア&材料集めの情報・ヒント

参加者からの主な感想

活動に関する反省点・改善点

2011年以降90分団4783件報告

10月10日時点

データベース化

例のない社会教育の場での
貴重な宇宙教育実践事例資料

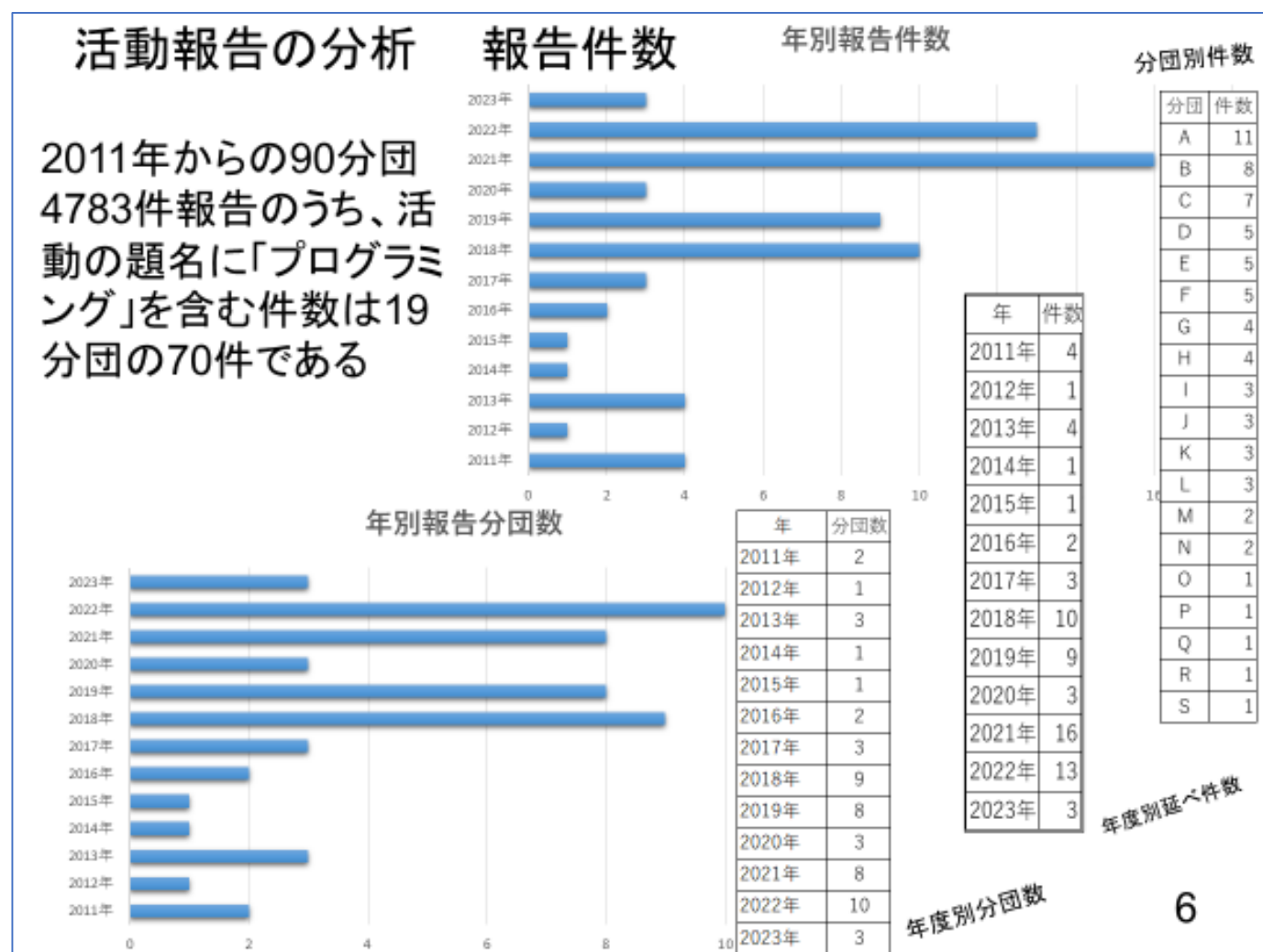
- ・キーワードで実践内容等の検索
- ・分団活動計画作成時の資料
- ・新たな題材への分団の取組状況把握
- ・特色ある分団活動への着目
- ・新たな活動教材集編集の資料

<データベース活用実践例紹介>

10月22日(日) 第7回 宇宙教育指導者セミナーは「プログラミング」に焦点を当てていた。

分団活動報告データベースで活動名に「プログラミング」を含んでいる活動を検索。19分団70活動から学んだ。

当日使用のスライドの一部を紹介。



<データベース活用実践例紹介>

活動報告の分析 教材名

活動の題材・教材は、活動の基盤です。

活動の全体像が見えてきます。

コンピュータ不使用教材例

YAC火星ローバーミッション2019



<https://www.yac-j.or.jp/marsrover2019/>

段ボールロボ 等



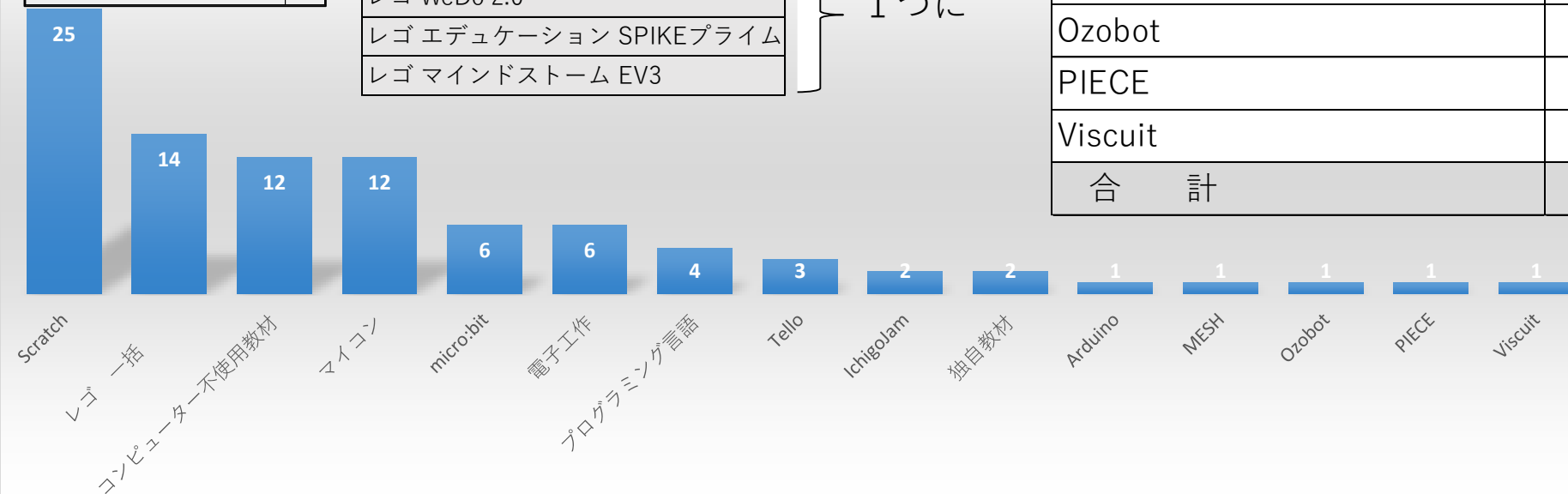
<https://www.yac-j.com/activity/report/?aid=7571>

レゴ
レゴ WeDo 2.0
レゴ エデュケーション SPIKEプライム
レゴ マインドストーム EV3

1 つに

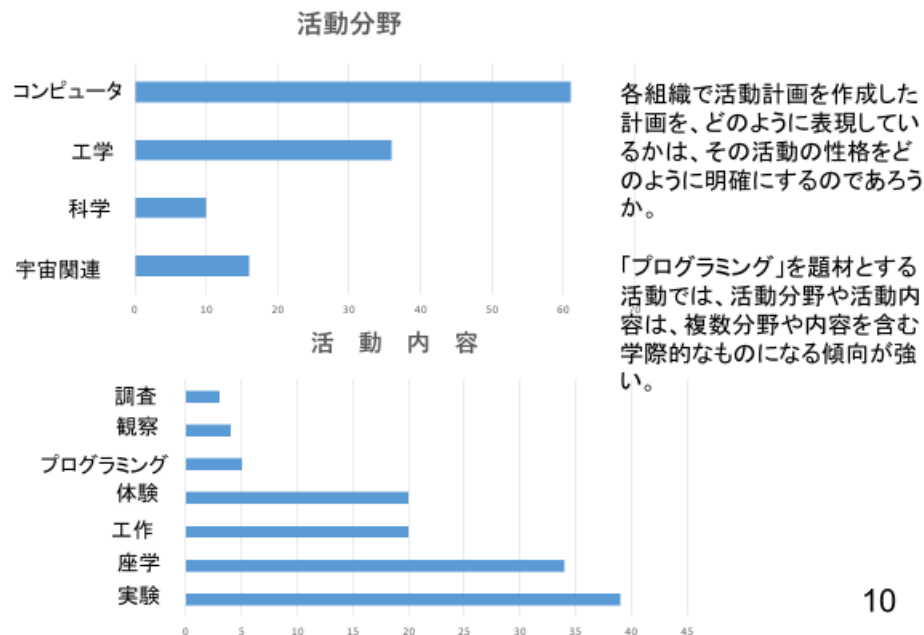
教材名	件数
Scratch	25
マイコン	12
コンピュータ不使用教材	11
ドローン	9
レゴ マインドストーム EV3	9
micro:bit	6
電子工作	6
プログラミング言語	4
Tello	3
IchigoJam	2
レゴ	2
レゴ WeDo 2.0	2
独自教材	2
Arduino	1
MESH	1
Ozobot	1
PIECE	1
Viscuit	1
YAC火星ローバーミッション2020	1
レゴ エデュケーション SPIKEプライム	1
合計	100

教材名	件数
Scratch	25
レゴ 一括	14
コンピュータ不使用教材	12
マイコン	12
micro:bit	6
電子工作	6
プログラミング言語	4
Tello	3
IchigoJam	2
独自教材	2
Arduino	1
MESH	1
Ozobot	1
PIECE	1
Viscuit	1
合計	91



<データベース活用実践例紹介>

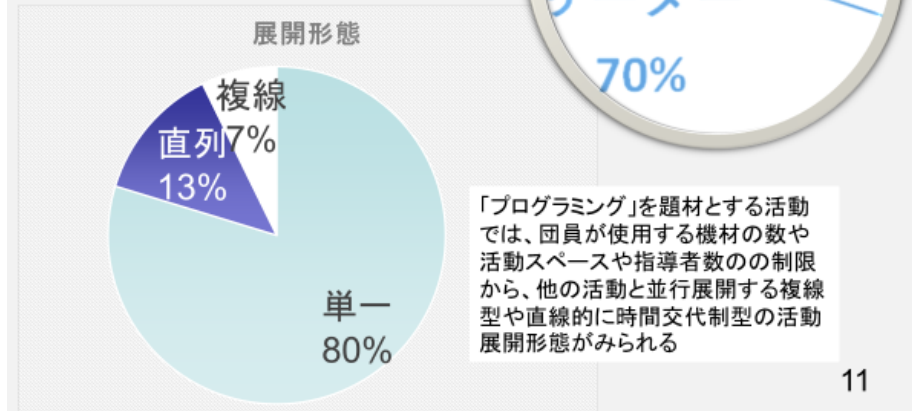
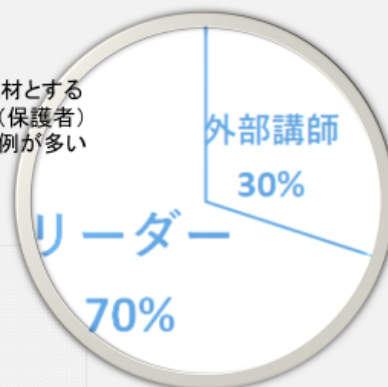
活動報告の分析 活動分野・活動内容



10

活動報告の分析 指導者・展開設定

「プログラミング」を題材とする活動では、外部講師(保護者)に指導を依頼する事例が多い



11

<改めて分団活動報告のお礼>

各分団の活動報告に真摯に取り組んでいただいていることに感謝申し上げます。

分団活動報告はYACの宝です。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

* 各分団からの、分団活動報告データベース検索依頼につきましては目下活動委員会で検討中です。

このサイトを活用ください

宇宙教育のヤック
YAC 日本宇宙少年団

活動報告登録マニュアル

YACウェブについての簡単な操作マニュアルをお伝えいたします。

[PDF 分団ページ機能について](#)

[PDF 活動予定・活動報告について](#)

6. 「宇宙を通して」学び続ける、育み続ける仕組みづくりについて

YAC活動における活動ポイント制度
(YACチャレンジ (仮称))
(たたき台の案)

2023年度 YAC活動委員会

柱立て（ブレスト）

- 「宇宙を通して」学び続ける、育み続けるためのしくみが必要
- 好奇心、冒険心、匠の心をベースに置く
- 育てる子供像は、次ページの **宇宙の子、科学の子、地球の子** とする。

宇宙 ...宇宙への夢、希望、冒険心、未知、チャレンジ、体験など

科学 ...科学する心を養う

科学的論理的思考、発見、継続探究、工夫、創造など

地球 ...つながる力、広がる力；つながり（マクロ～ミクロ）、文化、多様性、地域、世界など

現状：全国の分団でリーダーの得意分野、専門性、指導者層の幅、団員の層がばらばらである。リーダーに対する質を保証する研修制度もない（宇宙教育指導者セミナーはあるが、宇宙教育の概要にとどまっている）

大方針：

第1段階 活動項目を 大まかに宇宙、科学、地球に分けて活動内容の記録から始め、達成感を持たせることから始めたい。

第2段階 その後、活動項目ごとに宇宙教育での位置づけを行うとともに活動した内容に応じて級付け（ランク付け；C, B, A, Sなど）を行い、さらなる進化を目指す。なお、この進化にあたっては、級付けに応じてその内容の定義、指導者の教本、個々の内容に応じた指導者の認定などが必要になって来る。逆に、これを通してYACとしては全国どこでも宇宙教育の質の保証ができる。

3. 育てたい子ども像

・「宇宙の子」を育てる

宇宙への夢や希望・冒険心を育てる
体験や学びを通して「宇宙」を感じる



・「科学の子」を育てる

科学する心を育てる

不思議を発見し、継続的に探求し、工夫し創造する

・「地球の子」を育てる

つながり、ひろがる力を育てる

宇宙・自然・人・社会・科学技術のつながりを知り、
相互を思いやり、いのちを大切にする

第1段階

活動項目を 大まかに宇宙、科学、地球に分けて活動内容の記録から始め、達成感を持たせることから始めたい

- 宇宙 Space
 - 宇宙そのものに関わる活動
 - チャレンジ課題・活動
- 科学 Science
 - 科学実験、工作、創作活動など
 - プログラミング、電子工作等含む
- 地球 Earth
 - 多文化共生...さまざまな文化的活動、各国文化、語学、食事など
 - 自然体験学習、地域活動への参画、問題発見解決
- 振り分けは各分団にて判断

第1段階

YACパスポート

宇宙…宇宙にかかわる活動のこと

科学…科学実験、工作、創作活動など

地球…自然体験学習、地域活動への参画、交流など

	1	2	3	4	5	6	...
宇宙 Space	11/5						
科学 Science	12/10						
地球 Earth	10/15						



YACチャレンジ (YACパスポート内に記載)

日付Date: 11/5	活動内容Title: ロケットの製作	スタンプ Stamp:
宇宙Space: 科学Science: 地球Earth:	キーワードKeyword:	
リーダーLeader:		
記録Log: ...		

第2段階

論点

- ・これからの「宇宙時代」を生きる子どもたちに求めたい項目を選択する
- ・各項目の活動内容を難度、レベルに応じてC,B,A,Sレベルに分類する
- ・あまり細かくなりすぎないように気をつける
- ・活動の多様性を担保(提案)するためのチェックリストとしても活用できる
- ・だれがどのように評価する？
- ・指導する人の教本、指導する人を育てる仕組みも必要
- ・これを通してYACとしては全国どこでも宇宙教育の質の保証ができる
- ・B,A,Sクラスとその内容については今後、分団長会議等で議論していく。初めにCレベルについて例示し、B,C,Sレベルについてはこちらから押し付けないないように配慮する

項目	C (体験した)	B (自分なりに理解工夫)	A (概念を理解し、説明・実施できる)	S リーダー・指導者級 (専門的に理解し、指導できる)
水ロケット	・標準的な機体を手順通り製作し、飛行させた。 ・製作時に、道具等を正しく安全に使用できる。	・飛行の様子を観察し、自分なりに試行錯誤、工夫して機体を作り直し、改良・改善することができる。	・機体の製作にあたって、飛行の仕組みや各部の役割を理解し、科学的に考察しながら製作、改善を行うことができる。 ・飛行に際して、科学的に観察分析し、改良することができる。	A 迄に加えて、 ・構造や仕組みなどについて、科学的に理解し、説明・製作することができる。 ・製作、飛行に際し、参加者の実情を把握し、安全に配慮して、製作会、講座、大会等を運営できる。
星空観察会	・星空観察会に参加し、星座や星を観察する。	・星座早見盤やアプリケーションを使用して、自ら星座や星を探して見ることができる。 ・主要な星座や星、惑星などについて、早見番頭に頼らず確認し、指し示すことができる。	・星座や恒星、惑星、月等について、さまざまな逸話や、最新情報を取り込み、まとめて、他者に話すことができる。	